荒木飛呂彦

子供のころマンガ家に関する次のような噂があった。
①マンガ家は本物の拳銃をひそかに持っていて地下室で撃っている。
②デッサン用の男女のモデルがいて時にはヌードになってもらったりする。
③ブレインというアイデアを出す人がいて、世界中のあらゆる情報は彼に聞けばわかる。
④徹夜仕事をするなんてウソで週に4日はゴルフやヨットで遊んでいる。
はたしてこの中で本当はどれか？　教えません。

●週刊少年ジャンプ・H9年8号～16号掲載分収録

LOVE J-C

JUMP COMICS

ジョジョの奇妙な冒険 53

ザ・グレイトフル・デッドの巻

荒木飛呂彦

JC ジョジョの奇妙な冒険 53 荒木飛呂彦 集英社

9784088720401

1929979003906

ISBN4-08-872040-7

C9979 ¥390E

定価 本体390円+税

雑誌 43068－36

ジャンプ・コミックス

亀の中に身を隠し、ボスの娘とともに列車でヴェネツィアへ向かうブチャラティたちに肉体を老化させるスタンド、「グレイトフル・デッド」と殺人釣り針を操る「ビーチ・ボーイ」が迫る…！　凄絶な死闘の行方は!?

JUMP COMICS

ジョジョの奇妙な冒険

第53巻

ザ・グレイトフル・デッドの巻

荒木飛呂彦

ジョースター家のルーツ
1880
ダリオ・ブランドー
ジョージ・ジョースターI世
（英国貴族領主）
メアリー
殺害
殺害
ジョナサン
（波紋を修業）
（考古学者）
エリナ
ディオ
殺害
1900
間接的に殺害
ジョージ・II世
（波紋力なし）
（空軍パイロット）
1920
リサリサ
（エリザベス）
（波紋を修業）
(1889)
1940
ジョセフ
（ニューヨークの不動産王）
（波紋を修業）
スージーQ
（イタリア人）
空条貞夫
（日本人・ミュージシャン）
ホリィ
空条 承太郎
1970
（老後のジョセフ）
波紋の修業はないが自らのスタンドをもつ
スタンド：『星の白金』
日本人女性
(1989)
（ディオ 承太郎によって倒される。）
1990
（日本人・教師）
東方朋子
東方仗助
スタンド：『クレイジー・ダイヤモンド』
ジョルノ・ジョバァーナ
スタンド：『ゴールド・エクスペリエンス』
2000

トリッシュ・ウナ（15歳）ボスの娘。

ブチャラティ（20歳）
スタンド:『スティッキィ・フィンガーズ』

ジョルノ・ジョバァーナ（15歳）

ミスタ（18歳）
スタンド:『セックス・ピストルズ』

フーゴ（16歳）
スタンド:『パープル・ヘイズ』

ナランチャ（17歳）
スタンド:『エアロスミス』

アバッキオ（20歳）
スタンド:『ムーディー・ブルース』

前巻までのあらすじ

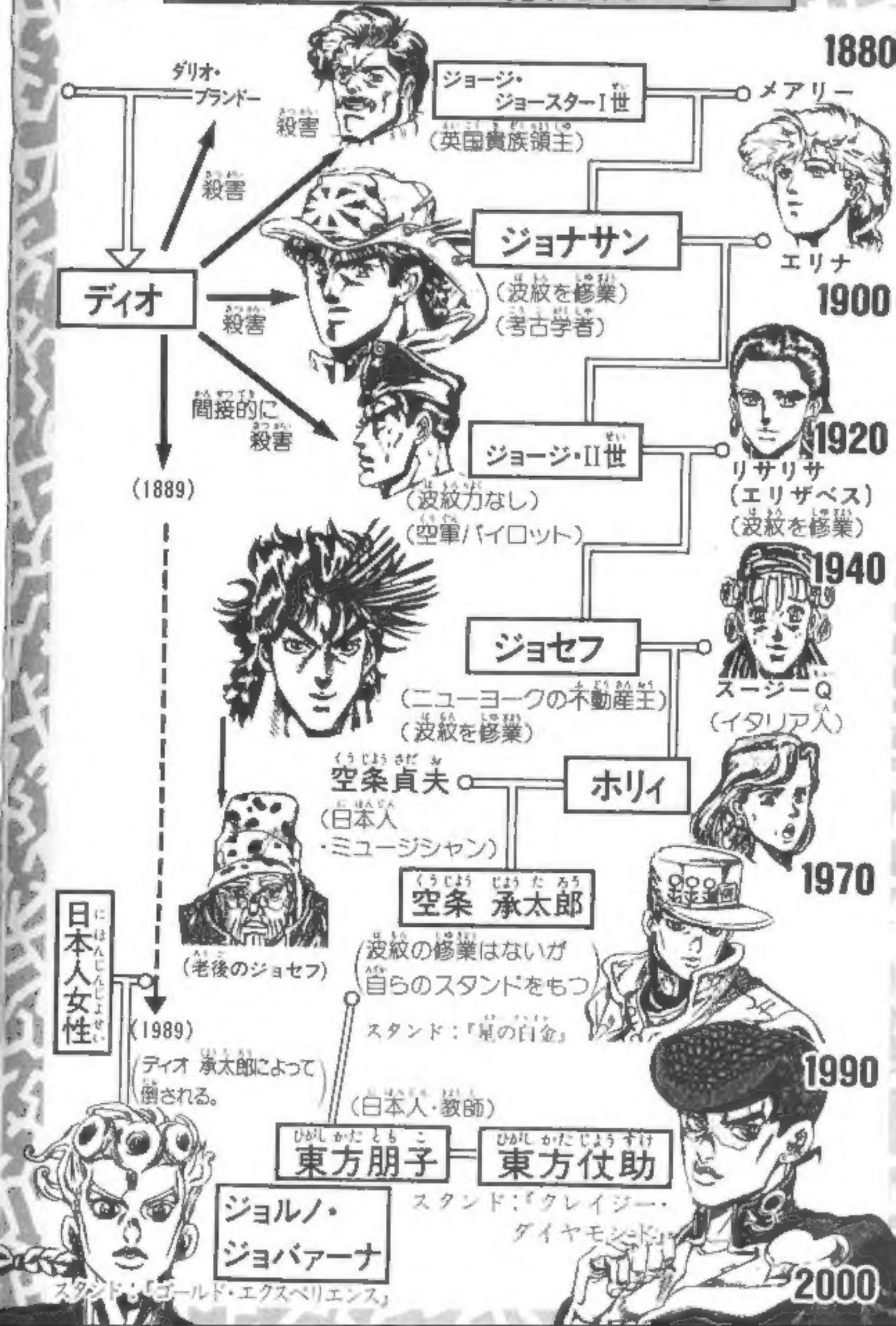
これは一世紀以上にわたるディオとジョースター家の因縁の物語である…。

現代の日本——ジョセフ・ジョースターの孫、空条承太郎はスタンドと呼ばれる超能力を持っていた。その影響で倒れた母を救い、元凶であるディオを倒すため、承太郎たちはエジプトに向かい、死闘の末、ディオを倒した。

＊　＊　＊

一九九九年の日本。地方都市、S市杜王町では「弓と矢」によって、スタンド使いが増やされていたのだ!! 東方仗助と仲間たちは、その正義の心で、邪悪なスタンド使い、殺人鬼、吉良吉影を追いつめ、これを倒した…。

＊　＊　＊

二〇〇一年のイタリア。ディオの息子、ジョルノがギャング団、パッショーネに入団。幹部、ブチャラティたちとともに、裏切り者集団からボスの娘を守る任につく。ヴェネツィアに向かう途中、敵スタンド使いが迫る…!?

ジョジョの奇妙な冒険

GioGio 第53巻

ザ・グレイトフル・デッドの巻

もくじ

偉大なる死（ザ・グレイトフル・デッド）
その④——⑦
その⑤——㉗
その⑥——㊼
その⑦——(67)
その⑧——(87)
その⑨——(107)
その⑩——(129)
その⑪——(149)
その⑫——(169)

コイッツダッ！
コイツガ「針」ト「糸」
敵本体ダッ！
アノ釣リ竿
ミテーナモノガ
コイツノ
「スタンド」ダッ！
ち…
ちくしょおお
な…
なんて事を！
オ…
オレの体を
冷やす「氷」が…
オ…
オレの
「氷」がッ！
ザ・グレイトフル・デッド
偉大なる死
その④
ジョジョの奇妙な冒険

こんなんじゃあ触ってスグに溶けちまう！
と…とりあえずここは逃げてど…どっかで「氷」を探すんだ…「氷」を探さねーとオレまで老化で死んじまうッ！
『逃げろッ！』
た…助けてエエエ～～～～
い…いったい何が起こっているんだア～～～～？
目もかすんでよ…よく見えない～～～～ッ
な…なんだオ…オメエ――ッ
ね…ねえええあんたあああど…どうなっち……まって…
るのか…なあああ…あああああああ
体中がだるくって動きたくないし
油っこい…肉を注文したのに食いたくなくなったんだアア
ど…どけこのオイボレがッ！
ゾンビくせえ手でこのオレに……

触ってんじゃあねエエ――ッ
あひィィィえええやややあああああ
イヤッホ――
手ニ命中――ッ
イヤ！乗客ニ命中スルカラ「ミスタ」ニモウ撃ツナト言エッ！
「ミスタ」ヲ呼べ！
「ミスタ」ガ来ルノヲ待テッ！
「ミスタ」――ッ
「ミスタ」ーッ

ひいいいい
えええええええ〜〜〜〜ッ
ああああ
ああああ
あああああ
あああああ
CL

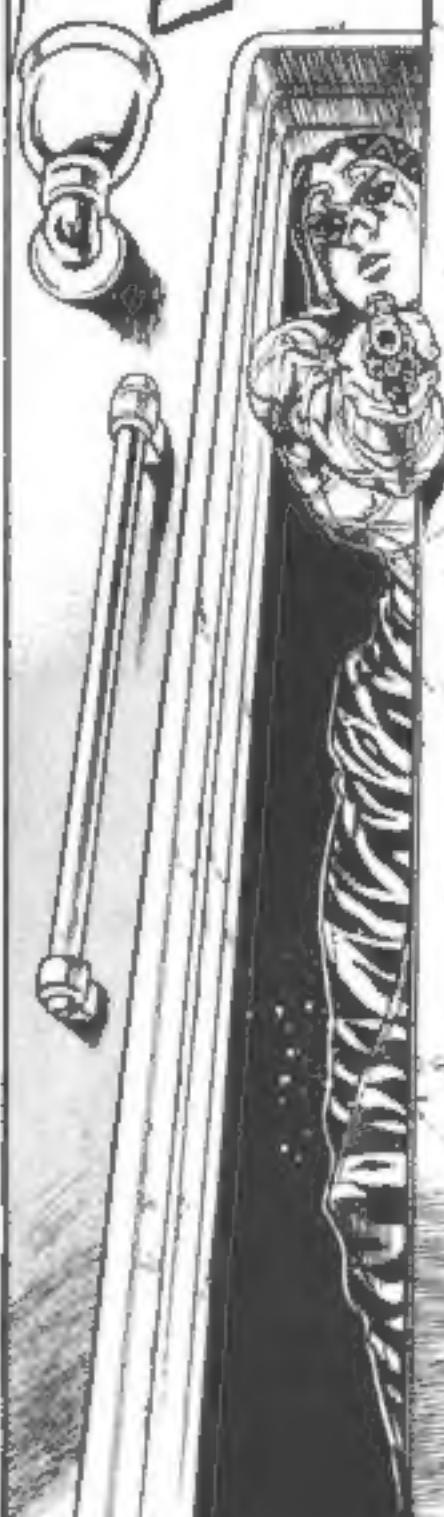
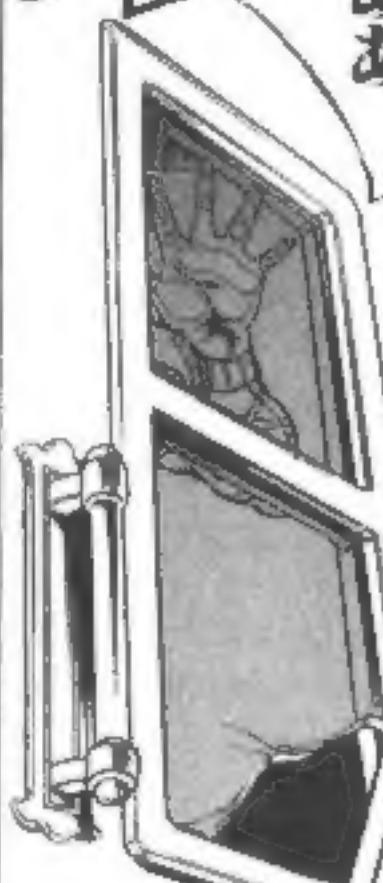
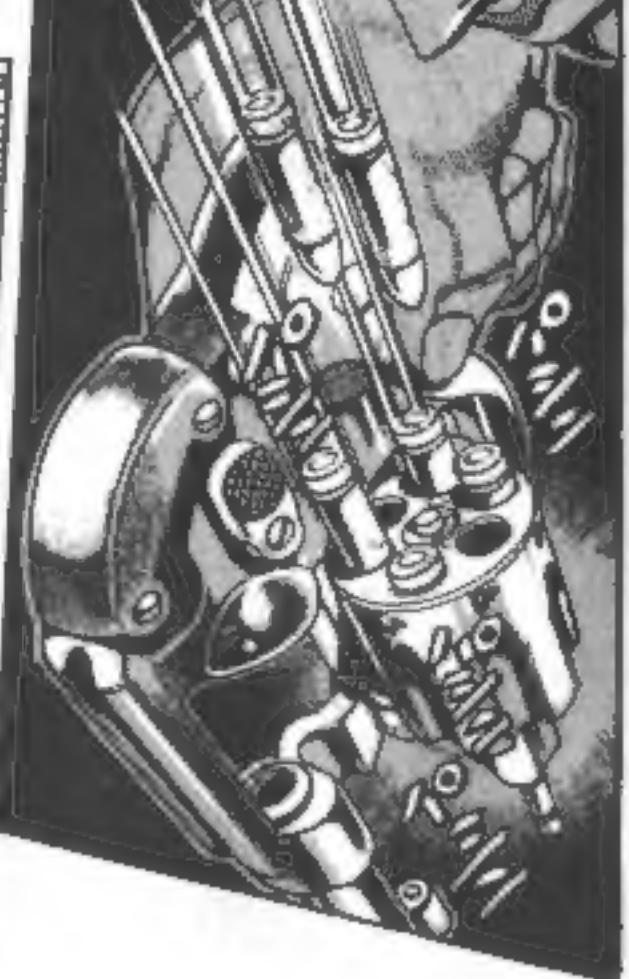
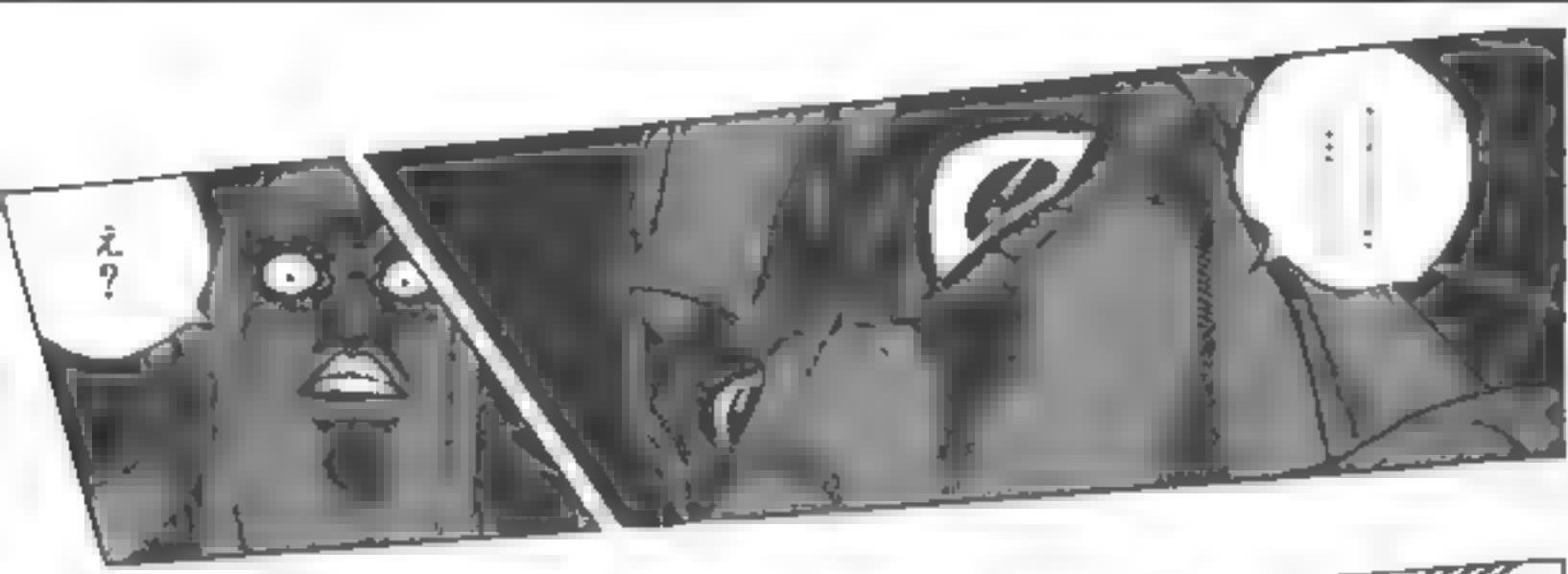
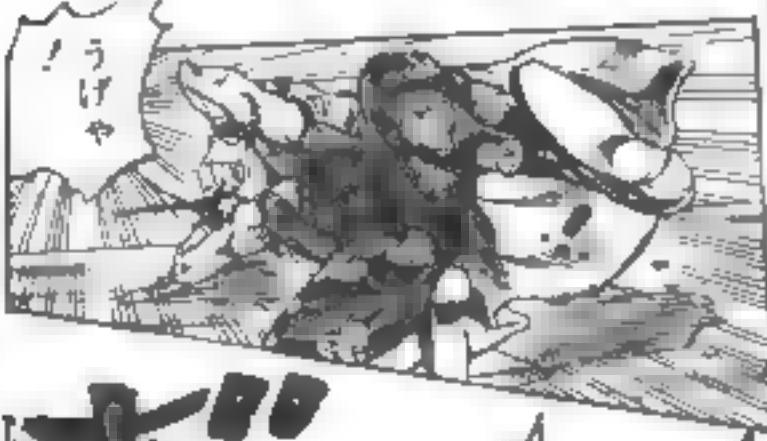
セックス・ピストルズ！
全員「弾丸」に戻って来いッ！

あ
あ‥……

オレが質問をして2秒以内にオマエが答えねえ場合は
オレはオマエの2つの目玉に各一発ずつ弾丸をブチ込む
1 2
それ以上は待たない！もしおまえが答えなくてもオレは自分で質問の答えを探しに行くからな
いいな？
それでは質問するぜ

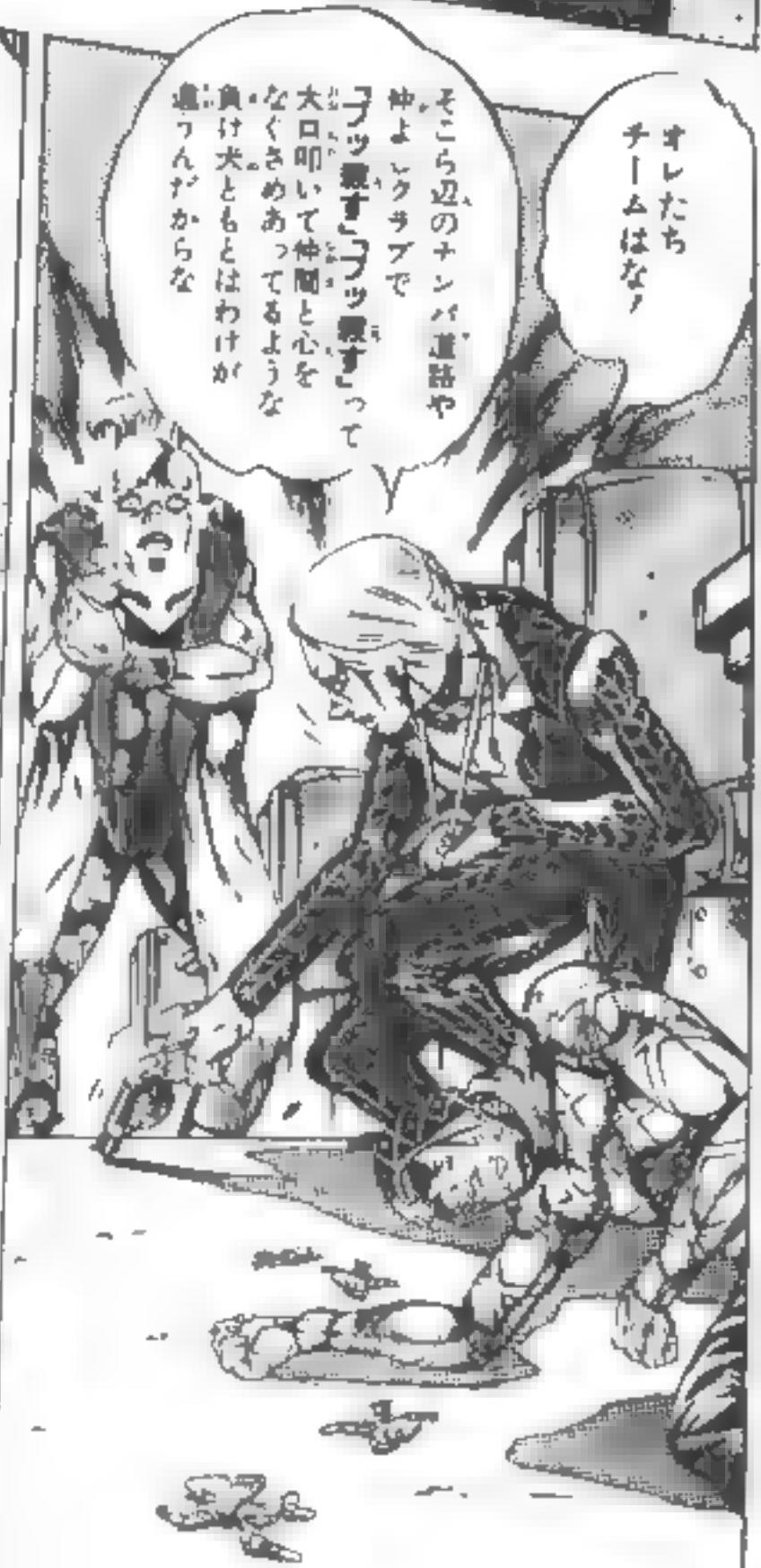
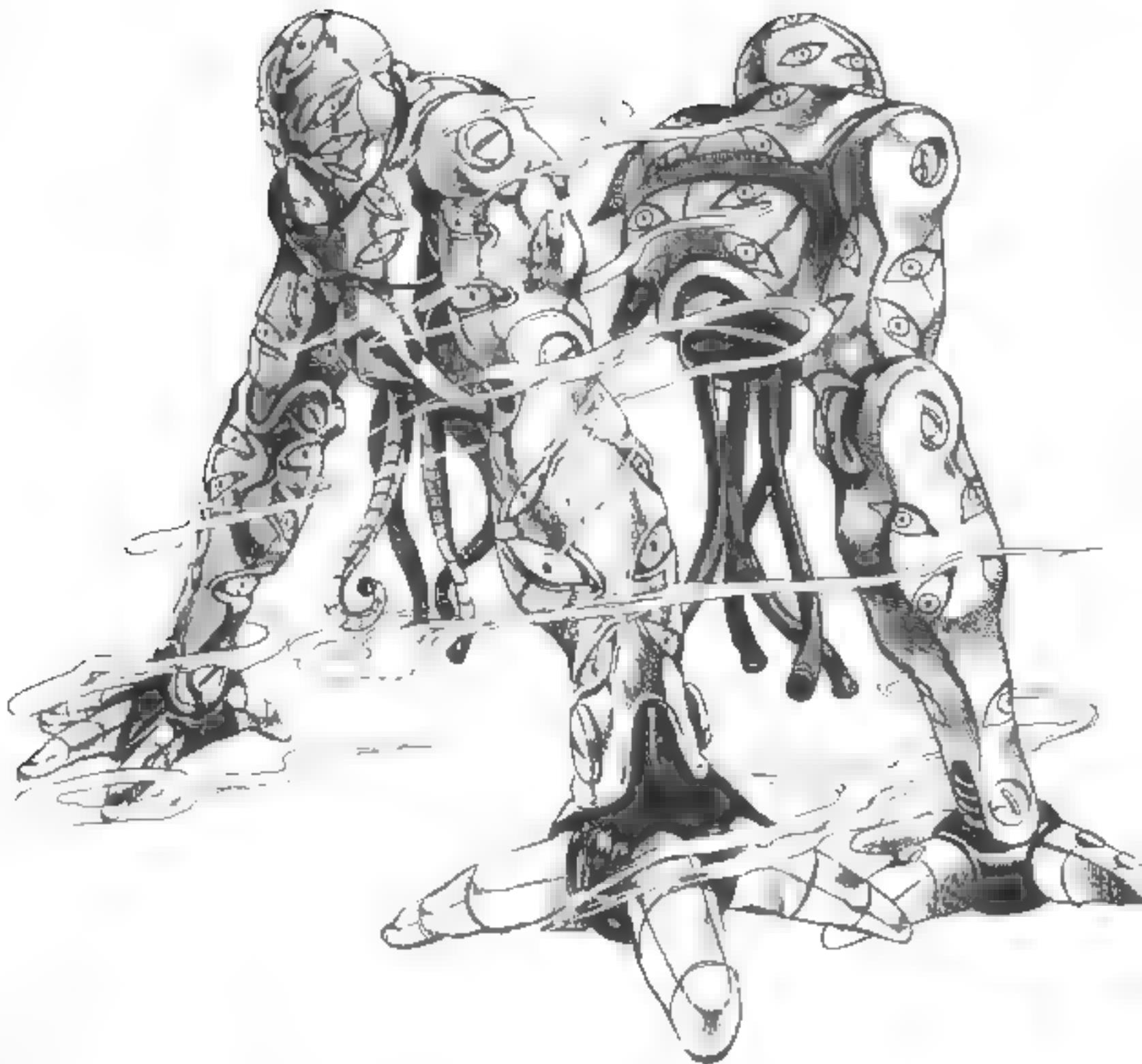
『てめーのもうひとりの仲間はどこにいる？』
……
！
1！
ドドドドド

し……
知るかよッ！オレだって知らねーんだよッ！
2ドゥーエ！
じゃあ死ね！覚悟はして来てんだろ？
ねえええあんたあああ
油っこい肉が好物だったのにさあああ急に食いたくなくなったんだ……
さっぱりした物がよくってさあああ
おい！どいてろッ！
すぐにまた肉が食いたくなるからよォ――ッ
いいや…もう何も食えないさ！
ただしおまえがだ……「ミスタ」

・・・・・・
え？
!!
ギュッ
ギュッ
だ・・・誰だ？てめエ──ッ!!
ドッ
ドムドドドド

うおおおお
おおおおおお
『グレイトフル・デッド！』
え？
な…なに!?
ま…まさか〃
そ…そのししい…〃
ドドドド
きィさまあ
あああああ
ボロ
ボロ
ボロ

「直」は素早いんだぜ
パワー全開だぁ～～～
「グレイトフル・デッド」の「直」ざわりはよおおお
あ兄貴かい!?
あんた兄貴かい
こ…このスピード しまった
ビ…ビス…トルズ！
おおこお おおおおっ
ドザァァ
ぜ…ぜんぜん 気がつかなかった！ あ…兄貴……!!
そ…そこにいたのかい？
ま…まさか！ 自分自身を自由に老化させて乗客の中にまぎれているとは……
ドドドドド
ドドド

兄貴イッ！
プロシュート兄貴イッ！やっぱり兄貴ィはスゲェーやッ！
さっきじじいのふりしてオレにだきついたのはオレがミスタに撃たれねぇようにかばってくれたからなんだねッ!!
うげや
！
な!?
!?
なんでイキナリ殴んだよォ――兄貴イイイイ

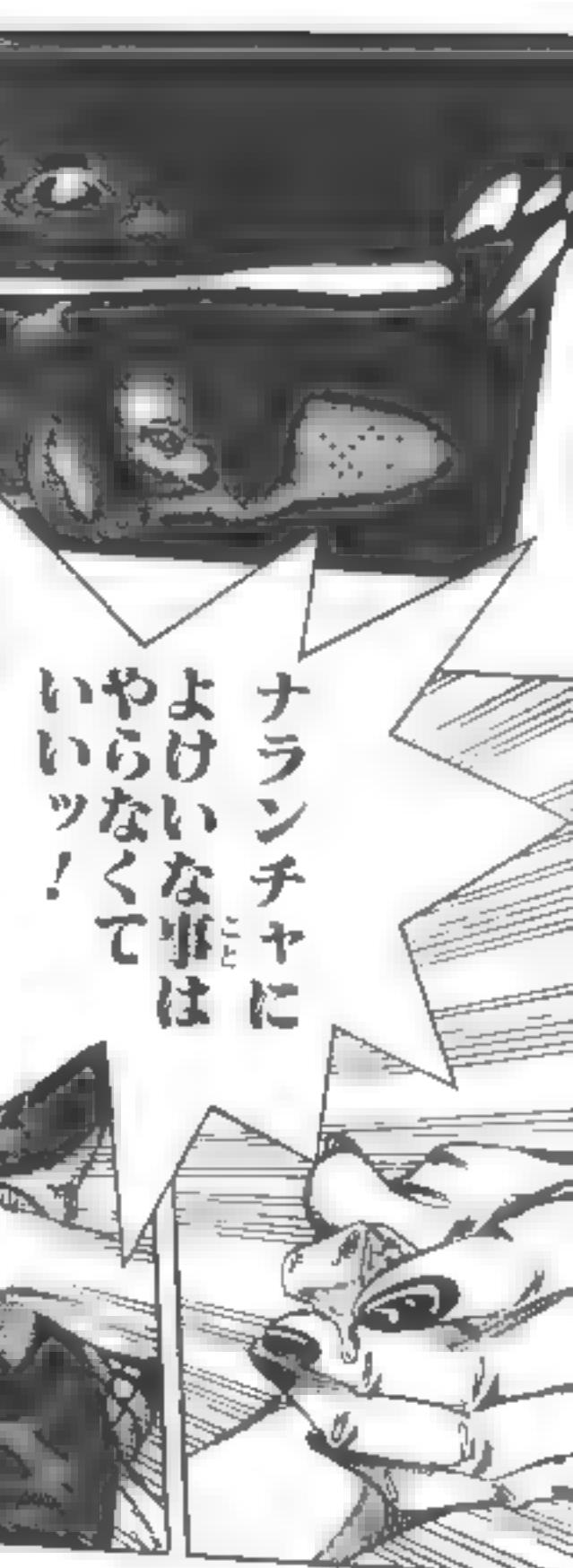
うわあああ…
や…やめて
くれよ！
なに怒ってんだよ
兄貴イイイ
イイ⁉
この腑抜け野郎がッ！
なんだ⁉今のザマは⁉ええ⁉
だっ…たって
「氷」を撃つなんて
思っても
みなかったんだ
しょうが
ねーじゃあ
ないか！
こいつら
早くも気づいてやがった
んですよ！兄貴の
「グレイトフル・デッド」は
体を冷やせば
老化が遅れるって
事をよォーッ
ああ…
たしかにそうだな
こんなに早く
「氷」の事に
気づくこいつらは
ブチャラティのヤツ…
恐ろしく頼りになる
部下を持ってる
らしい！
だがそんな事は
遅かれ早かれ
バレるのは オレだって
承知の上だよ
まだ
わかんねーのか
ママッ子野郎の
ペッシ！
ひイイ
も…もう
殴らねーでくれよォ
兄貴イッ！

いいかッ！
オレが怒ってんのはな
てめーの「心の弱さ」
なんだペッシ！
そりゃあたしかに
「氷」をイキナリぶっ飛ばされたんだ
衝撃を受けるのは当然だ！
自分まで「老化」しちまうんだからな
オレだって
ヤバイと思う！
だが！
オレたちのチームの
他のヤツならッ！
あともうちょっとで
ノドに食らいつけるって
「スタンド」を決して解除したりは
しねえッ！
たとえ
腕を飛ばされようが
脚をもがれようともなッ！
オメーは
「ママッ子」なんだよ
ペッシ！
ビビったんだ…
甘ったれてんだ！
わかるか？
え？
オレの
言ってる事
「氷」のせいじゃあねえ
心の奥のところで
オメーにはビビリが
あんだよ！

「成長しろ」ペッシ
「成長」しなきゃあ
オレたちは
「栄光」をつかめねえ
ブチャラティたち
は
勝てねえ！
そして
ハッキリと
言っておくぜ
オレたち
チームはな！
そこら辺のチンパ道路や
仲よしクラブで
「ブッ殺す」「ブッ殺す」って
大口叩いて仲間と心を
なぐさめあってるような
負け犬どもとはわけが
違うんだからな
「ブッ殺す」と
心の中で思った
ならッ！
その時スデに
行動は終わっているんだッ
！

ドドドドド
ドドドドド
行くぜ ペッシッ！
ミスタが 一両目から 出て来るのを オレはここから 見ていた
そして たしかオメー さっき運転室に 「何かもうひとつ気配が あった」って言ってたな
それを思い出した！ 隠れてる方法は わからんが…
娘は… 運転室に いるッ！

スタンド名―「ザ・グレイトフル・デッド」 本体―プロシュート兄貴		
破壊力―B	スピード―E	射程距離―列車一本程度は十分
持続力―A	精密動作性―E	成長性　C

能力―生物を無差別に [illegible] 身も心も記憶さえも老化させる能力
体温の微妙な上昇差によって男女の区別をする。
つまり [illegible] 氷で冷やせば男でも老化のスピードは遅くなる

A―超スゴイ　B―スゴイ　C―人間並　D―ニガテ　E―超ニガテ

ザ・グレイトフル・デッド
偉大なる死
その⑤
そしてビーチ・ボーイ

ナランチャによけいな事はやらなくていいッ！
グラスの『氷』は君だけが使う物だッ！
ハァハァハァハァハァハァ
…………

ナランチャの事は…
ハァ ハァ
かまわなくていい
君だけが体を冷やすんだ…その小さなカケラは君だけの物だ
扇いで風をあてるとか水をつけたタオルの温度くらいじゃあぜんぜん冷えないわ
「氷」で冷やさなくっちゃあ効果がないのよ
この彼…のままでは一番最初に死んでしまうわ!
ナランチャもオレたちも覚悟の上でボスの命令に従っている
君は自分の安全だけを考えるんだ
それがオレたちの仕事だ
君は好き好んでここにいるわけではないんだからな…
ハァ ハァ
そして この「老化させる敵」の事は
外の「ミスタ」がなんとかする…

なんとか……してくれるはずだミスタ
さもなきゃあ
……
………

ゴオオオオオオ
え
え

ス
ス
「どこに」「どうやって」ヤツらは隠れているのか？わかりかけてきたぞ!!
探す発想を「4次元」的にしなくてはいけないんだ
ブチャラティは駅のホームで「ボス」から「何か黒いもの」を受けとった
それだ…この運転室で今探すのはそれだッ!
おい ペッシ さっき この運転室で オメーの感じてた「気配」って なんだと思う？ 今は感じねーのか？
そ その事なんだけどよ あ 兄貴ィ
ペッシ ペッシ ペッシ ペッシよォ～～～
オレはオメーを信じてるんだ オレがさっき おまえを怒った事なら「自信を持て」
おまえの「ビーチ・ボーイ」は その気になりゃあ 何者にも負けねー能力じゃあねーか？ そうだろ？
コツ
あ あんまり期待なんか しねーでくれよォー さっき オ… オレの感じた「気配」なんかによォー
オ・オレ「鼻」が悪いし
オメーがさっき感じた「気配」は ものスゴク怪しいんだ
ここが正念場だぜ ペッシ！ オレたちは ヤツらを追いつめてる！

「自信」を持っていいんだぜ！オメーの能力をよォ――
そ……そうかい？
そうさ
オレの「能力」は「標的」がしぼれてる時だけだからよ
で…でも「気配」って言ったって今はもう良くわからねーよ
思い出すんだ
ささいな事でいいんださっき何か妙な物はなかったか？「黒っぽい」物とかよ
え！「黒っぽい」……
『物』

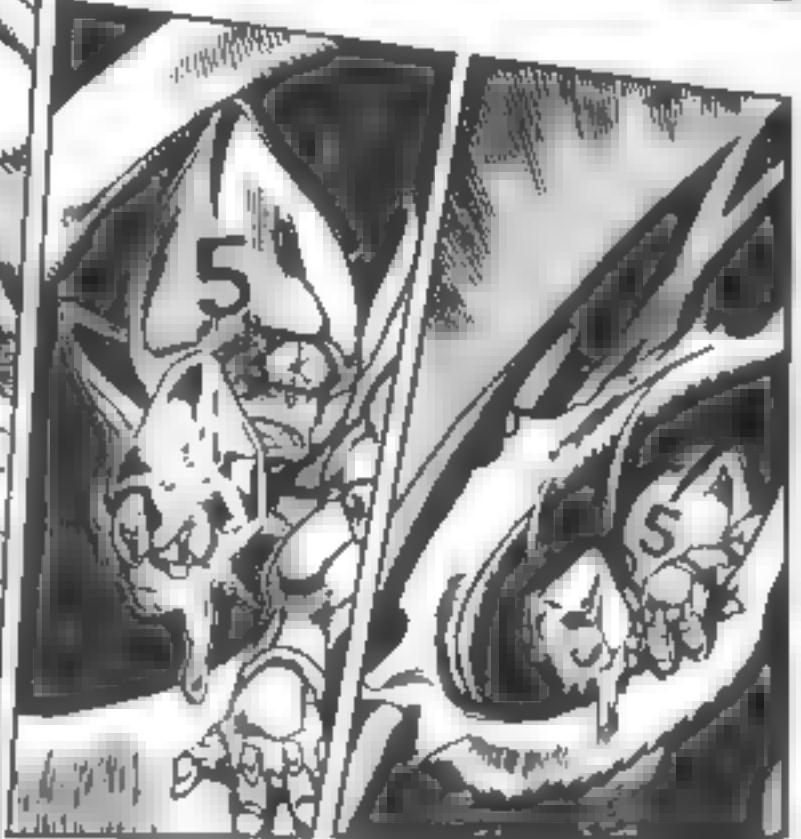
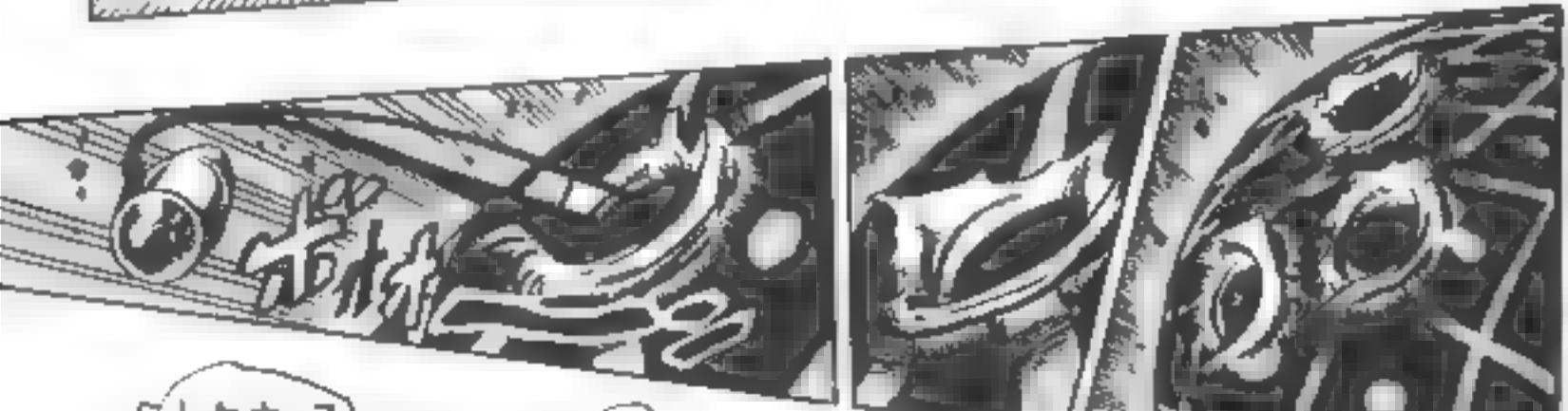
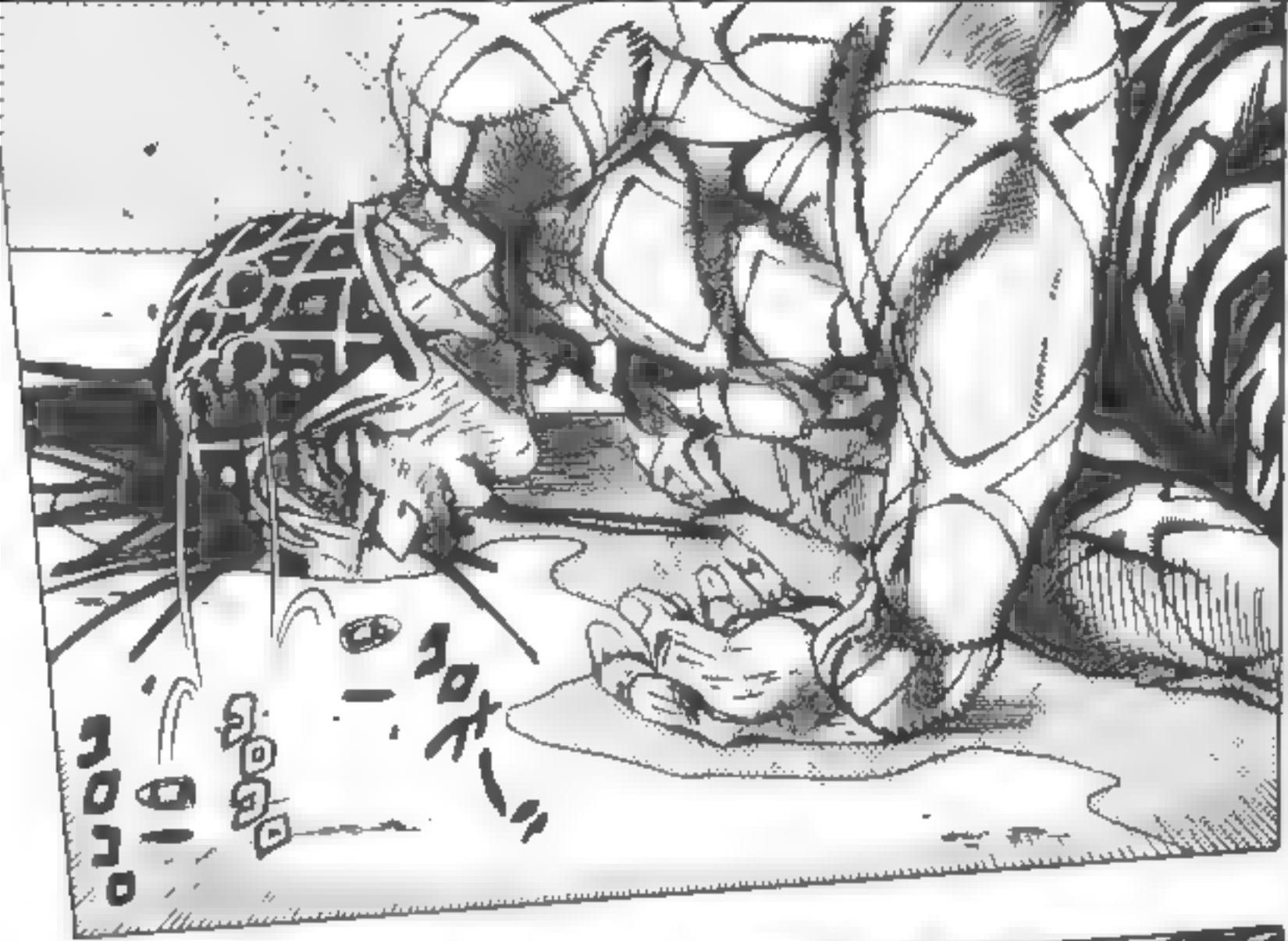
鼻っぽい物って言われてみりゃあ
そうだ！兄貴！
何か気になったのを思い出した！
オレさっき運転席の下を見てみようと思ったんだ
何か妙だったんだッ!!

……
す…すまねえ
あ 兄貴
なんでもねえよ
気のせいだった
や…やっぱり
そ…その
あてにしねーでくれよォー
オレなんかの「勘」をよォー
いや
そうでもねーようだぞ
でかしたぞ
ペッシ
……
え？
なんですって？
「謎」は解けたぜッ！
ブチャラティともが「どこに」「どんな方法」で隠れているのか
ブチャラティはボスに何をもらったのか！
ドドド
おまえのおかげで全て理解したぞ
ペッシッ！

あ…兄貴？
何を言いたいのか！？
オ…オレにはさっぱりわからねーけど…
なんで電車の運転席の下にイキなり『動物のフン』があるんだ？
ネズミなんかじゃあねえ
ネズミとかならもうとっくに寿命でくたばってるからな
古いフンじゃあねえ
今しましたって感じだ
いったいどういう事だ？
これから推測できる事は……
え？

「スタンド能力」は人間だけが持つ物とは限らねえ！そしてこの「動物」はッ！
物陰を移動してるってこったア!!
ドドドドド
あっ！
あっ！

ドドドド
なっ…なんだこりゃあぁ
「亀」かよッ！
亀だッ！そ…そしてこの亀の背中にくっついてる物の中には！
見つけたぜ！「娘」だッ！
他のヤツらも見えるッ！
娘以外全員予想とおり「老いて」もう死にそうだ！！

決まりだゼッ!! この「亀」にさらに「直」の能力をたたき込む! 娘以外 全員もう寿命で命はつきるッ!
「グレイトフル・デッド!!」
ちょっ ちょっと待って兄貴ッ!・・・こいつら!
ひとりたりないンじゃあないスかッ!

ゴゴゴゴ
ほ ほら！ 誰かひとりいないぞ！
の他に4人しか中にいないんだ…
誰かいないモン！
誰だ？
誰か中にひとりいないよっ！

コロコロ
コロコロ
ゴボーッ
ウェェェ～～～ン
「ミスタ」ーッ
立チ上ッテクレヨオーーッ
モウ コレシカ「氷」ガナイケド元気 ナッテクレヨオーッ!!

普段の心がけが…良かったというか…
ギリギリ運が良かったというか
さっき拾った「氷」の破片を帽子の中に入れといたおかげで
冷えたおまえだけが――「NO.5」
老化から復活できたようだな……
良く弾丸を止めてくれた…3発も…
もうひとつ頼みがあるんだが……
NO.5
うえええええーん ブチャラティノ所へ行ケッテアンナラ「ミスタ」!「NO.6」ヲ復活サセタカラ モウ スデ 行ッタヨーッ!
「ミスタ」! NO.6ガ あんたのポケットの中の『氷』ヲ持ッテ 敵ガ2人 亀ニ セマッテイルッテ 知ラセニ 行ッタヨオーッ
そうか……行ったか
「氷」は必要ねえからな
それでOKだ オレにはもう
ミスターッ

『ブチャラティ』だッ！兄貴ッ！
中にいないのは『ブチャラティ』だッ！
ヤレーッ
チクショーッ

ザ・グレイトフル・デッド
偉大なる死
その⑥
ジオオオ
「中にいないのはブチャラティだーっ」
プロシュート兄貴ィ
ブ・チャ・ラ・ティがい・な・いッ！

偉大なる死(ザ・グレイトフル・デッド)その⑥

ドドド
〝えっ
く……
クソッ

なんだってエエエエエエ――――ッ
ドドドド
ンバーから吹き込んで来る風の動きに感づいたか
しかもなかなか「素早い」動きだ
「ミスタ」のスタンドがなんでここにいるんだ？
この手で完璧に脳天に弾丸ブチ込んでやった
はずなの、なんで「氷」を持ってここにいる。
ドドドドド

とにかく
こいつを倒せば
いいんだなッ！
この『黒い肌の男』の方をッ！
ソーダゼッ！
ブチャラティッ！
コイツヲ始末
スリャア
ミンナノ老化ハ
解除サレルッ！
ソイツニ
触ラレルナァー──!!
掴マルト
モノスゴイ『スピード』デ
『老化』サセラレルッ!!
チッ

ヤレエーーッ!!

おうおおっ
!!
くっ
……
早っはい”
うおっ
うおおお
おおっ

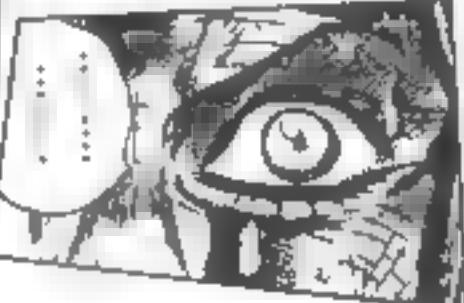
あっ兄貴ィ!!
オレにかまうなッ!
亀の中のヤツらを始末しろッ!
えっ!?
え!?
早くやれーッ
こいつの仲間を殺せッ!

うげっ
甘いんじゃあねーか！ブチャラティ
「ミスタ」のヤツ…
せっかく知らせてもらったのによ
はっ!!
仲間を切り捨てても娘を守るため
オレを倒す！それが任務じゃあねえのか？
「幹部」失格だな

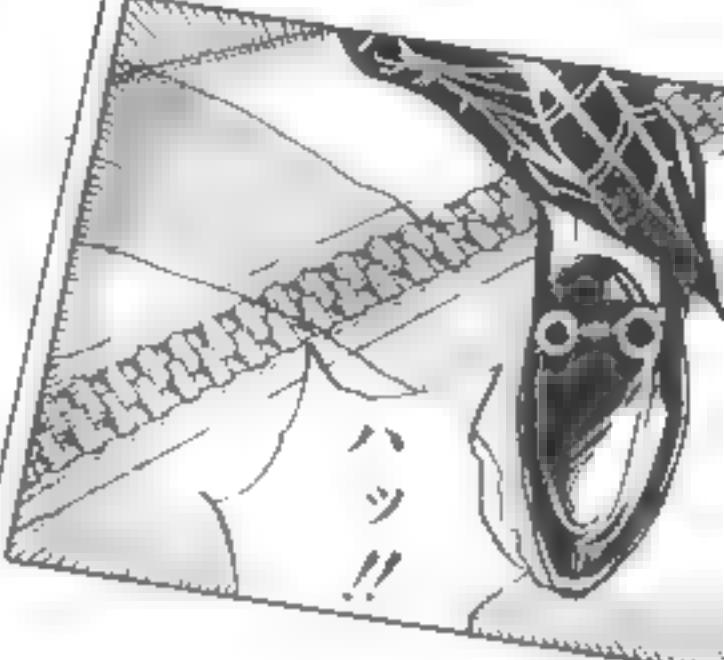
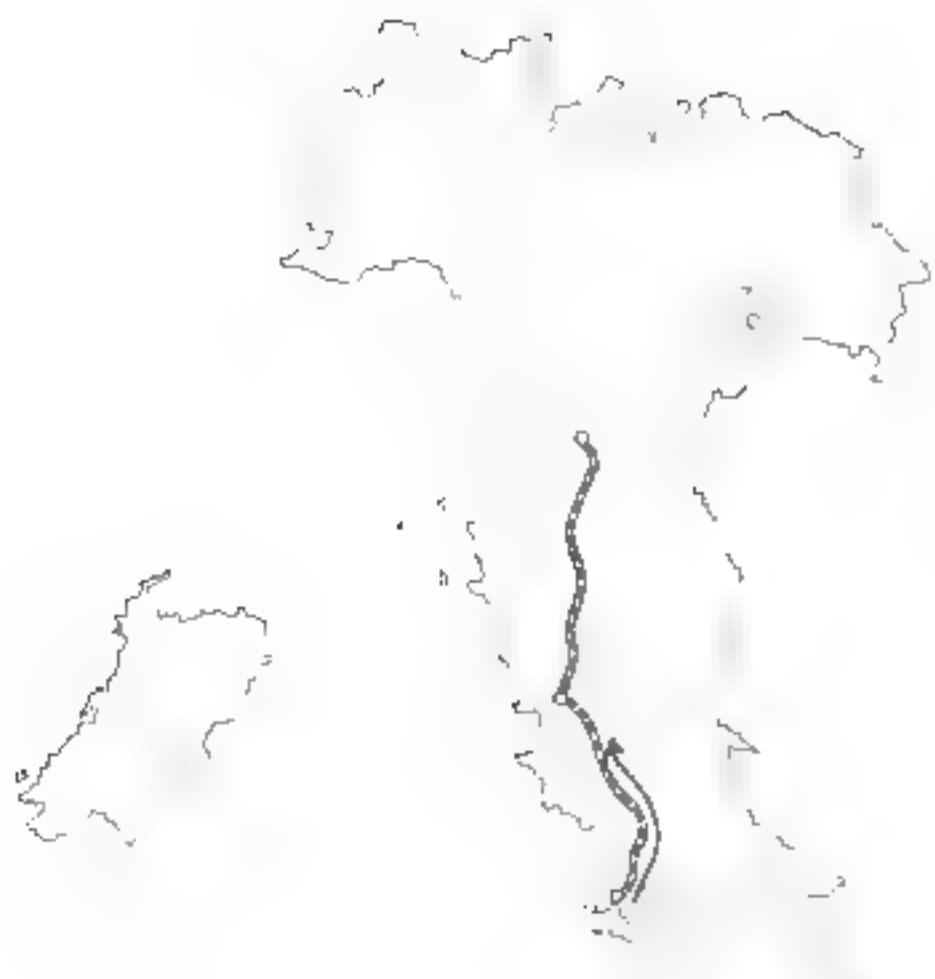
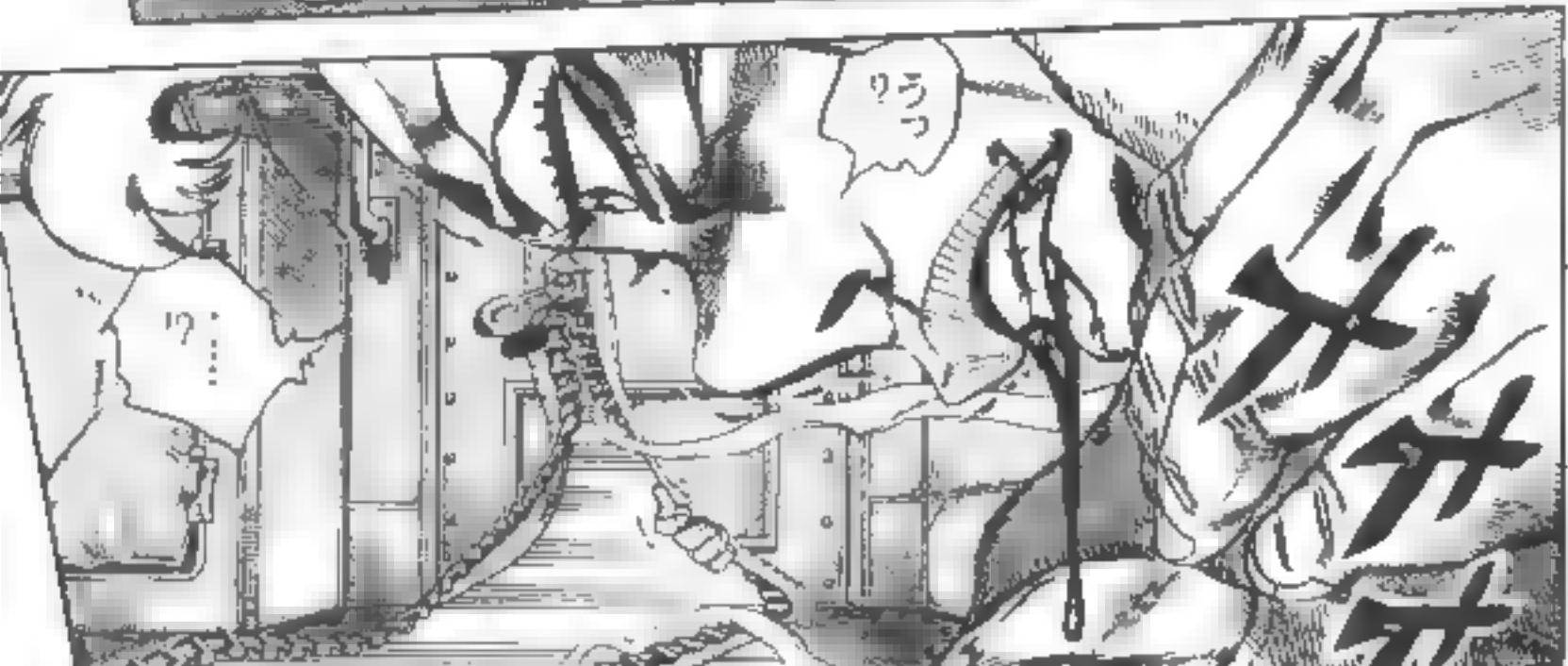
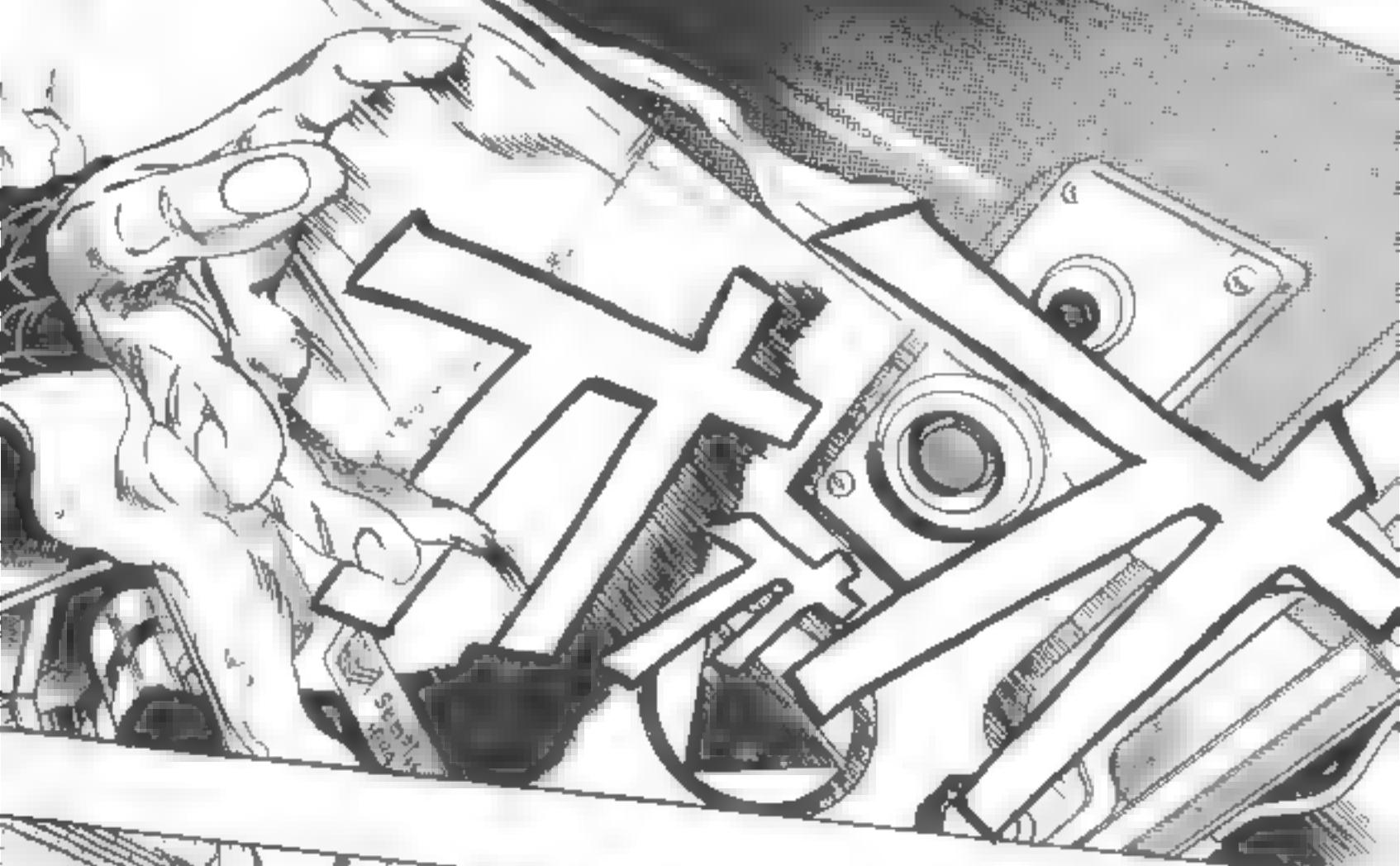
くらえ！『グレイトフル・デッド』ッ！

ボゴオオ
なに!?
うごオっ

ドッグォオオオオーン
ドドドドドド
ハアーーー
ハアーー
ハアーーッ
ハアーーッ
ハアーー
「任務は遂行する」
「部下も守る」
おまえごときに
両方やるというのは
ドドドド
そう
ムズかしい事
じゃあないな
「早い」
ハアーッ
ハアーーッ
「早い」なら
ハアー
ハアー
たしかに

ダッ ダッ
おまえの ハァ ハァ ハァ 「スティッキィ・フィンガーズ」 なァっか
の方が たしかに スピードは 上のようだな
ゴゴゴ
ハァー
だがな……そんな事は わかっていたさ…… オレの「グレイトフル・デッド」は エネルギーを「老化」の方に 使っているからな
ハァー ハァー
ハァーハァー
オレの方は 承知の上で…… それは理解していないのは おまえの方さ ブチャラティ…「スピード」を理解していない
ハアー ハアー 息切れしてるよな…… オレ ハァー ハァー ハァー
おまえもだ ブチャラティ……
スタンドのエネルギーを 全力疾走のように 使ったもんで お互い体力を けっこう 消耗している
馬力のある車ほど ボディが あったまるんだぜ……
「カロリー」使うからな
ハァ
ハァ
おまえは それを 理解しないで 動き回った じっとしていても 「老化」は進行してるって いうのによォ
とにかく 「スピード」を出し まくった
賢明なオマエにゃあ オレの言ってる事 わかるよな…… 体があったまりゃあ どうなるかをよ…!!

ノ…ナチャラティ!!
コ…「氷」がキ・カ・ナ・ク・ナッテ来テイルッ!!
「スティッキィ・フィンガーズ」!!
どう……するんだよ……
え?
おまえにくらったこの「ジッパー」…!
だんだん閉じて来ているぞ アイツの「ジッパー」はもう消えた どうしたの? 氷コリで 疲労でも出て来たか
ガクッ
ガクッ
…
…

見えるッ！のろいぞブチャラティ！
ドシィィ
掴んだッ！
これでおまえらは皆殺しだ!!
そしてボスの娘はオレたちが手に入れるッ！
ググ
ズキュ
承知の上だ……体があったまってくる…のならな

捕まえられるのも覚悟の上だ
「任務は遂行する」「部下も守る」
「両方」やらなくっちゃあならないってのが
「幹部」のつらいところだな
覚悟はいいか？オレはできてる
!!?
ハッ!!

まッ!!
!?
まさかッ！
き…きさまッ！
バカな!!
おまえを
この列車から
追い出せる
「老化」さえ
解除すれば
5人の部下は
復活する！
娘も守れる！
てめー
ハ・ハカな！
は…放せッ！
外は時速
一五〇kmだぞ……
おいおし
掴んだのは
オマエナろう
がよ
ブジャ
パ
うおおおお
おおお
死ぬ気か!?
ブチャラティ!!
きさまーーッ

うおおおおお
ああ
オオオ

ペッシーーッ
何やってるーーッ
ペッシーーっ！
早く列車を止めろーーッ!!
うう
う〃
おおお
あぁッ
ああ！

うっ

ザ・グレイトフル・デッド
偉大なる死 その⑦

あっ…

兄貴!!

はっ

偉大なる死(ザ・グレイトフル・デッド) その⑦
ガチャ
おぁああああああああああ

これでおまえも……〟
おまえの「老化の能力」も
消え去り……
そして部下は「復活」し娘は「保護」されるッ！

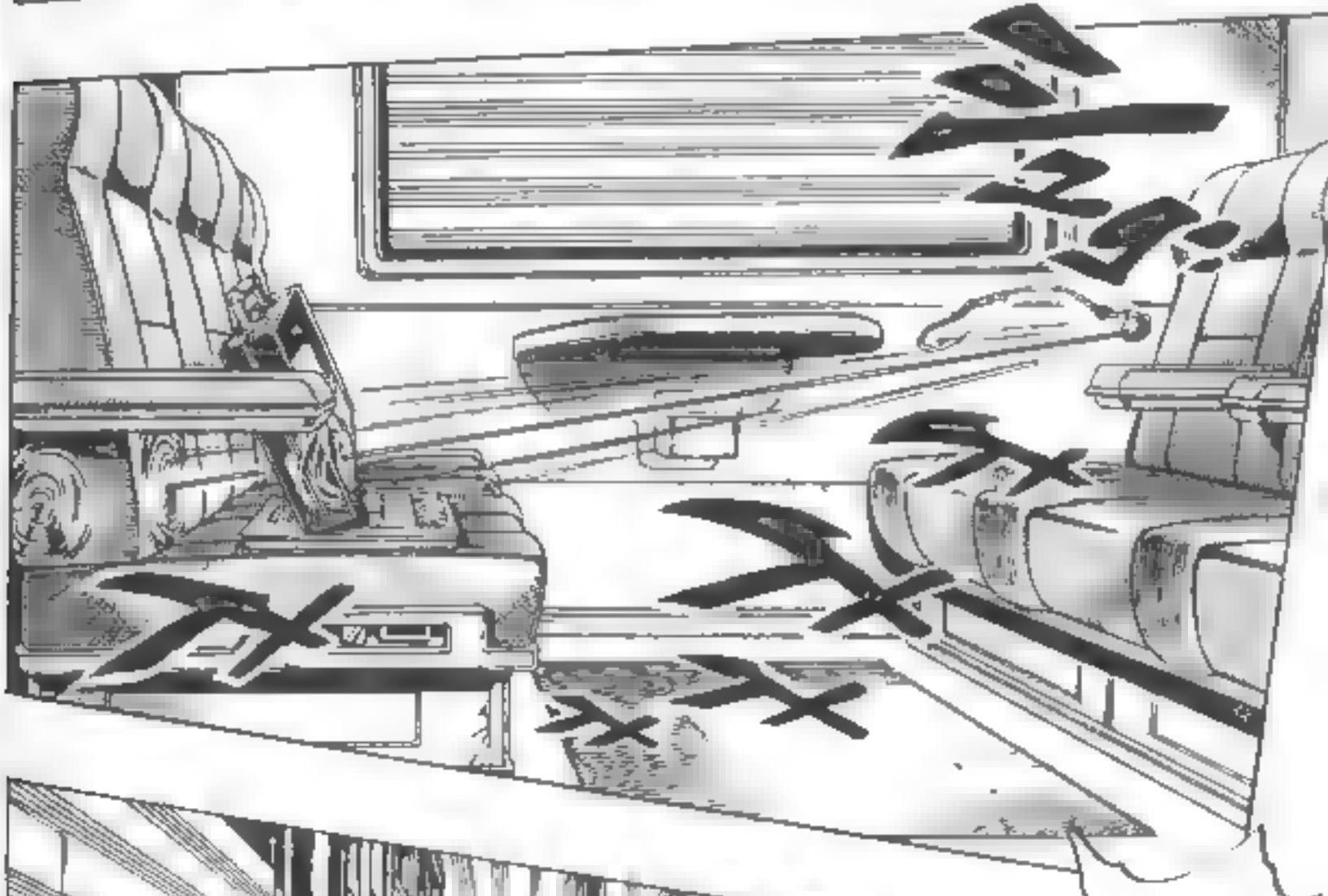
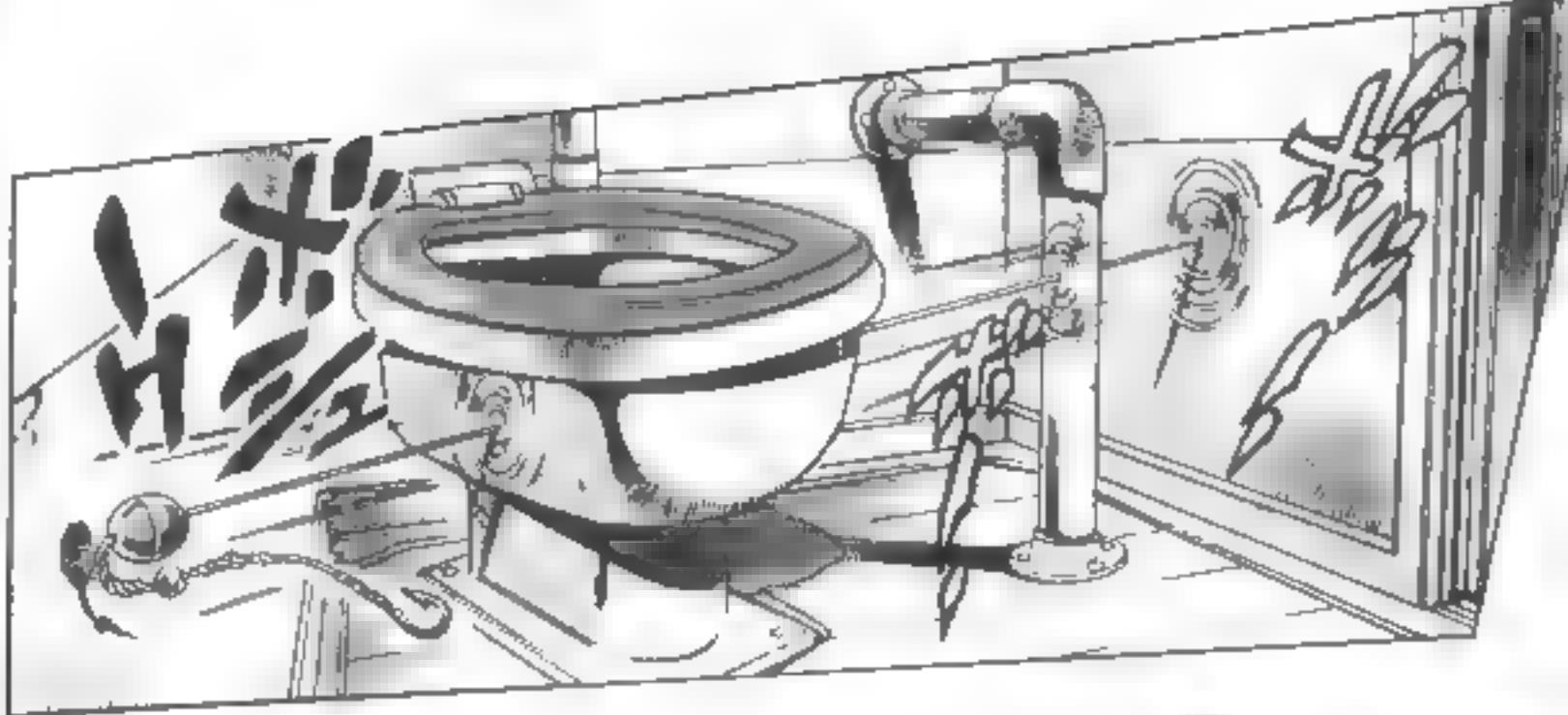
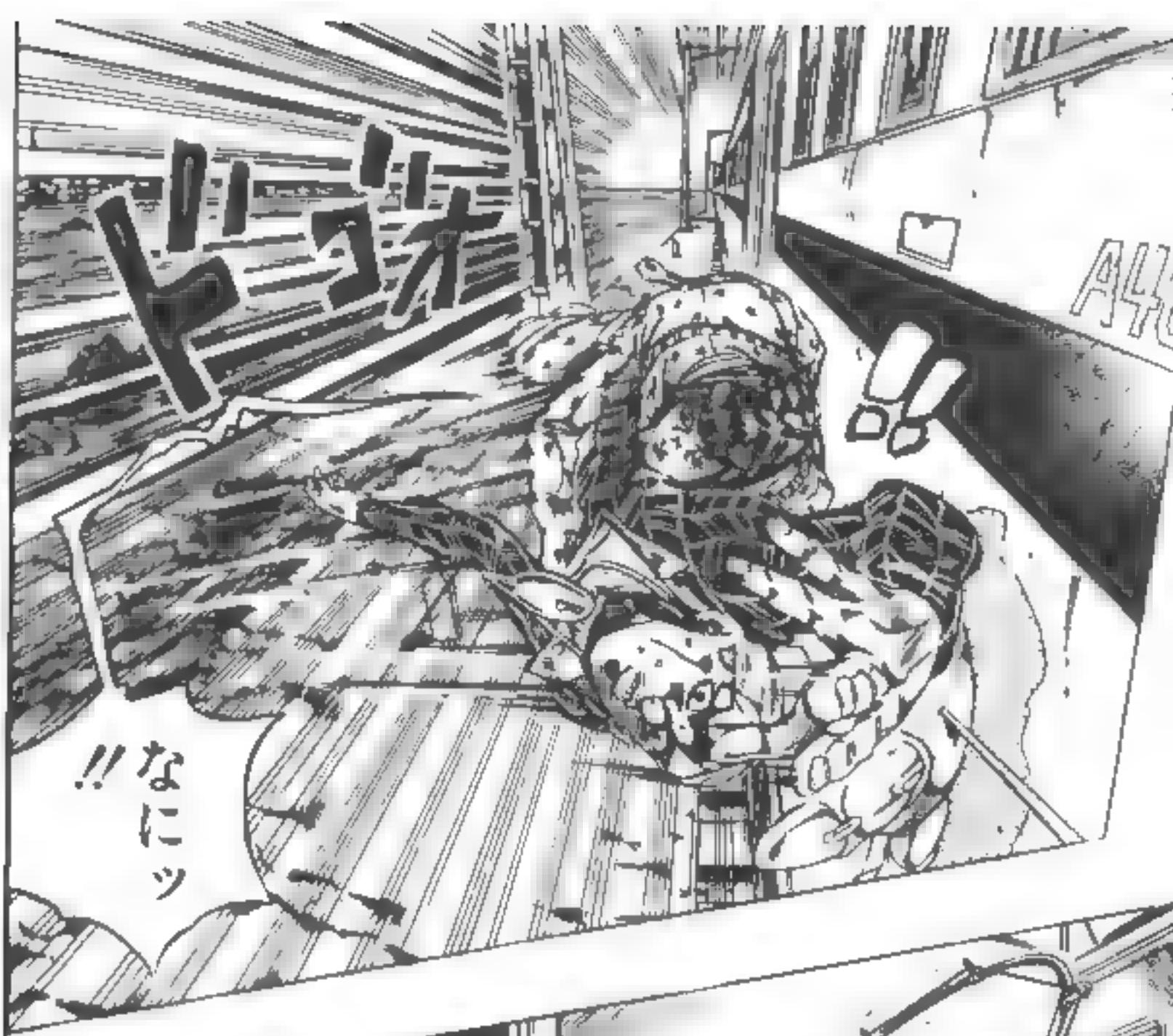
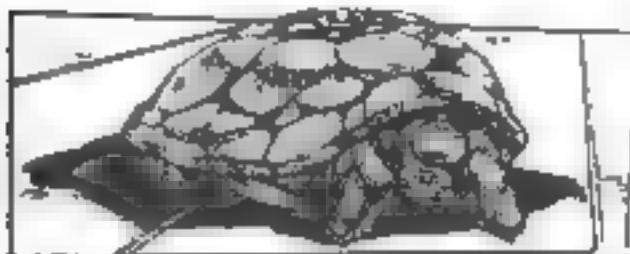
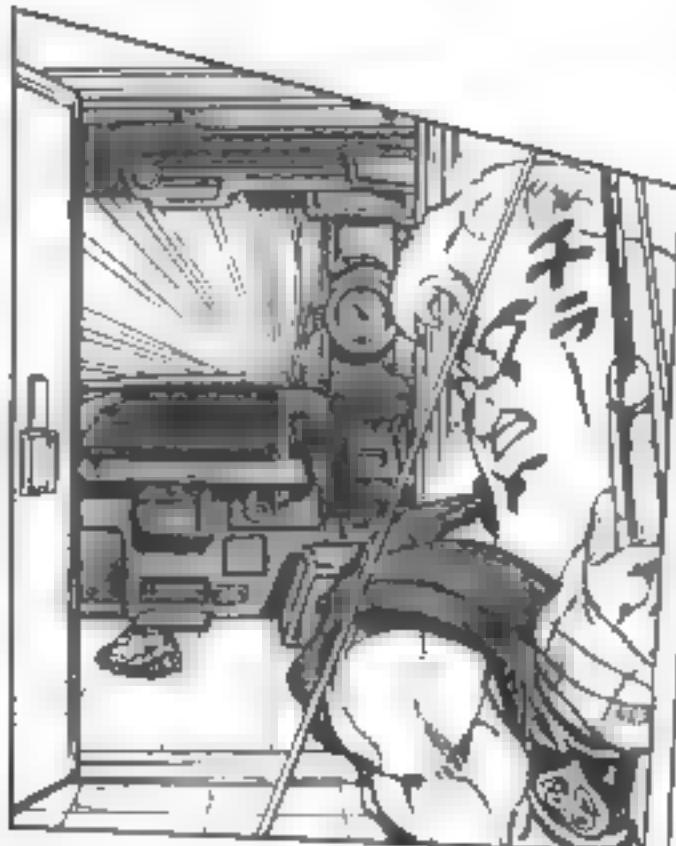
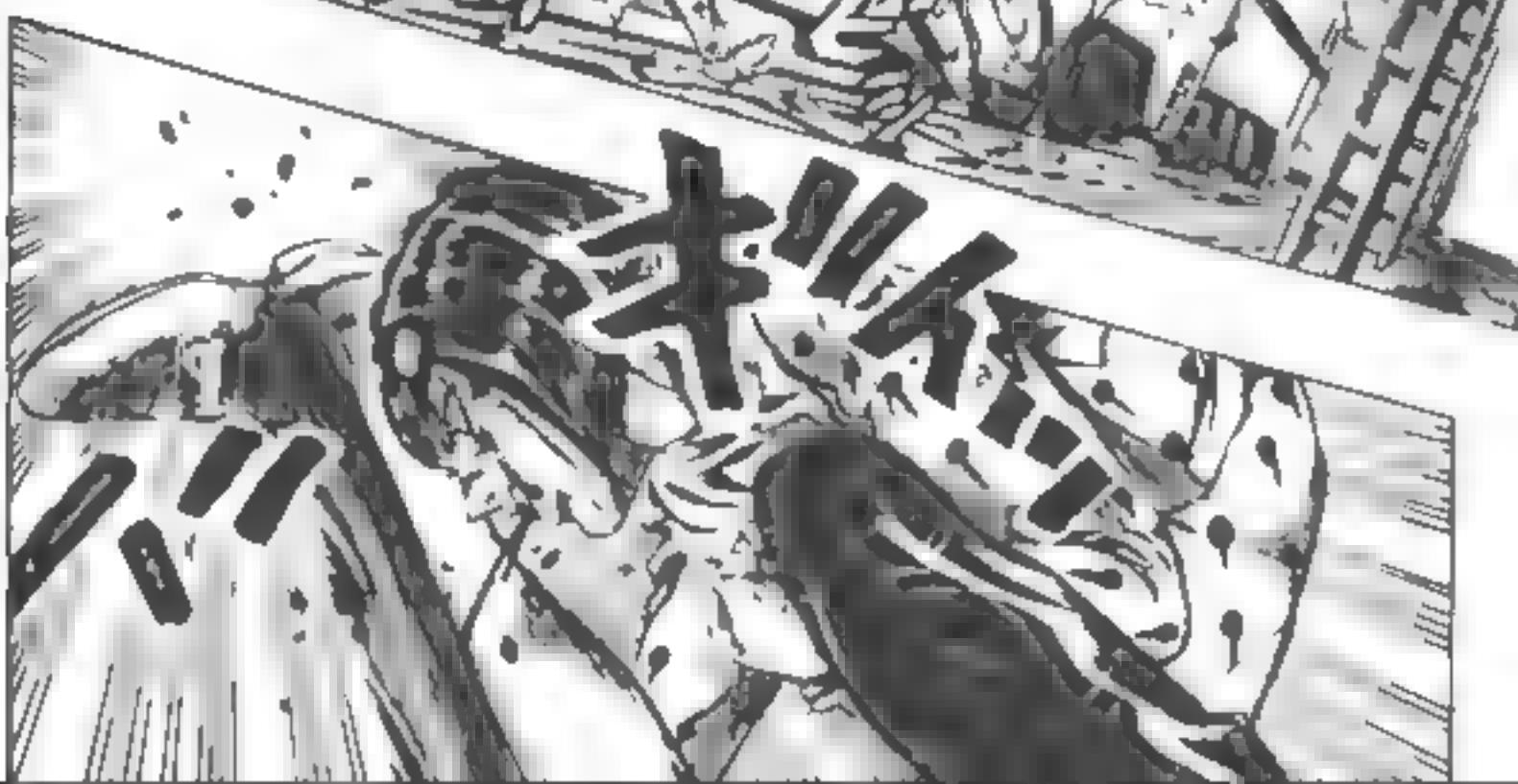
てめェエブチャラティイイイ───ッ!!

「止め方」なんてわかんねエーッ!!
間に合わねえーッ
兄貴ィイイイイーッ

おああああああああああああ

ドゴオ
!!
なにッ!!
プロシュート兄貴イイイ
ズザザザザ
なんだとッ
ペ…ペッシ!

うぬああああ!!
で・でかしたぞベッシ!
良くやった!助かったぞッ!気がきいたなッ!
!?うっ

な…なにが起こったのか見てなかったけど……
ギリ
ギリ
ギリギリ
あ…あぶなかった！ギリギリだったけどひっかけられてよかったぜ……〃
それにこの「針」はもう決してはずれない〃
でもオレの今のこの姿勢からじゃあ列車を減速するのもあの「亀」を捕まえるのも不可能だぜ…兄貴ィ〜ッ！
そしてこの手ごたえは「2人分の体重だ」
ブチャラティ!!あいつもいっしょにしがみついてるなッ！

おまえは 車体へ 乗り移らなくても いい……
ザッ
くっ…
今の おまえの行動… 「本当」にオシマイかと 思ったよ ブチャラティ
さっき おまえの事 「戦闘失格」だなんて 言ったが 撤回するよ 無礼な事を 言ったな
おまえは物事を 平等に決断できる男だ 「自分の事」をも 含めてな
ボスが「娘」の護衛を おまえにまかせてもいいと 判断したのは 正しい選択だった…… いいや マジに恐れいったよ

だがな
ブチャラティ
おまえは
ツイてない
「幹部」だ！
落ちて行く
んだな
――――ッ！！
時速150キロの
地獄へッ！

「スティッキィー・フィンガーズッ！」
忘れたのかッ！おまえの老化は「未だ進行中」なんだぜ──ッ
のろいぞ──ッ！

なにッ

両手をはなして……………
同時に…
だが……
何発くり出そうが
スロリな「老化の動き」なんだよ！
追いつめられたあがきじゃやがって！
ドド
ハン！

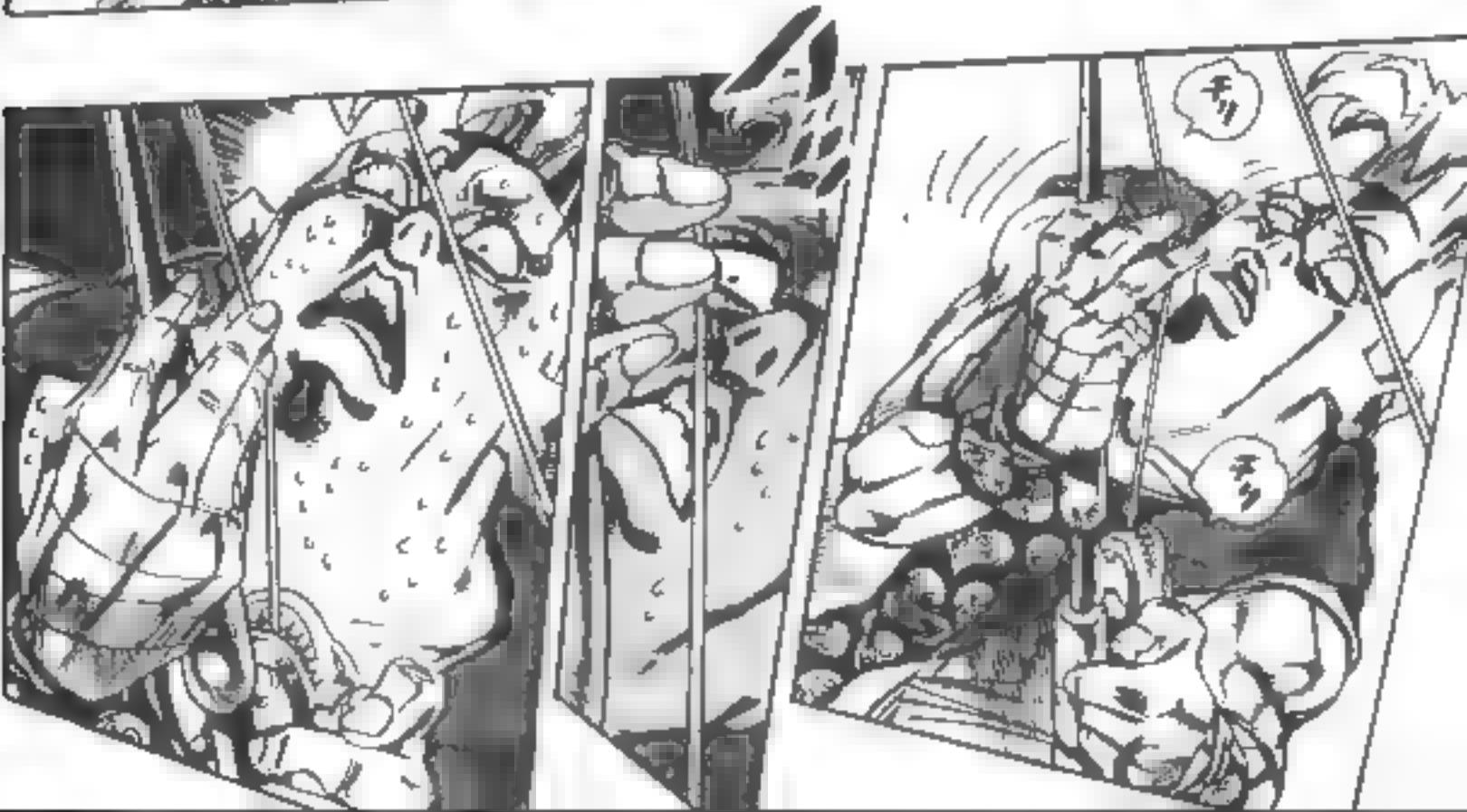
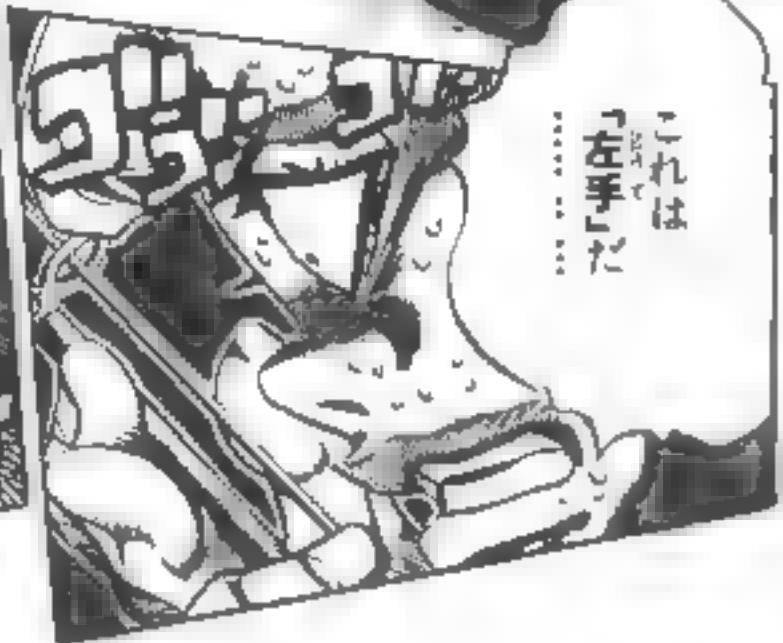
無駄な事しやがって！ブチャラティ――ッ！
ゴオオ
ドドドド

落ちて行けエエ――ッ!!
やはりガードしたな
…………
いや……
だから両手をはなしたんだおまえがガードせざるを得ないようにな!
まったく…弟分がおまえを引っぱったその「意志」に救われたぜ

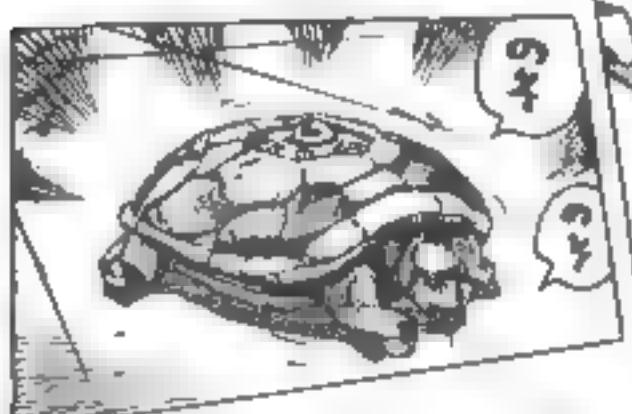
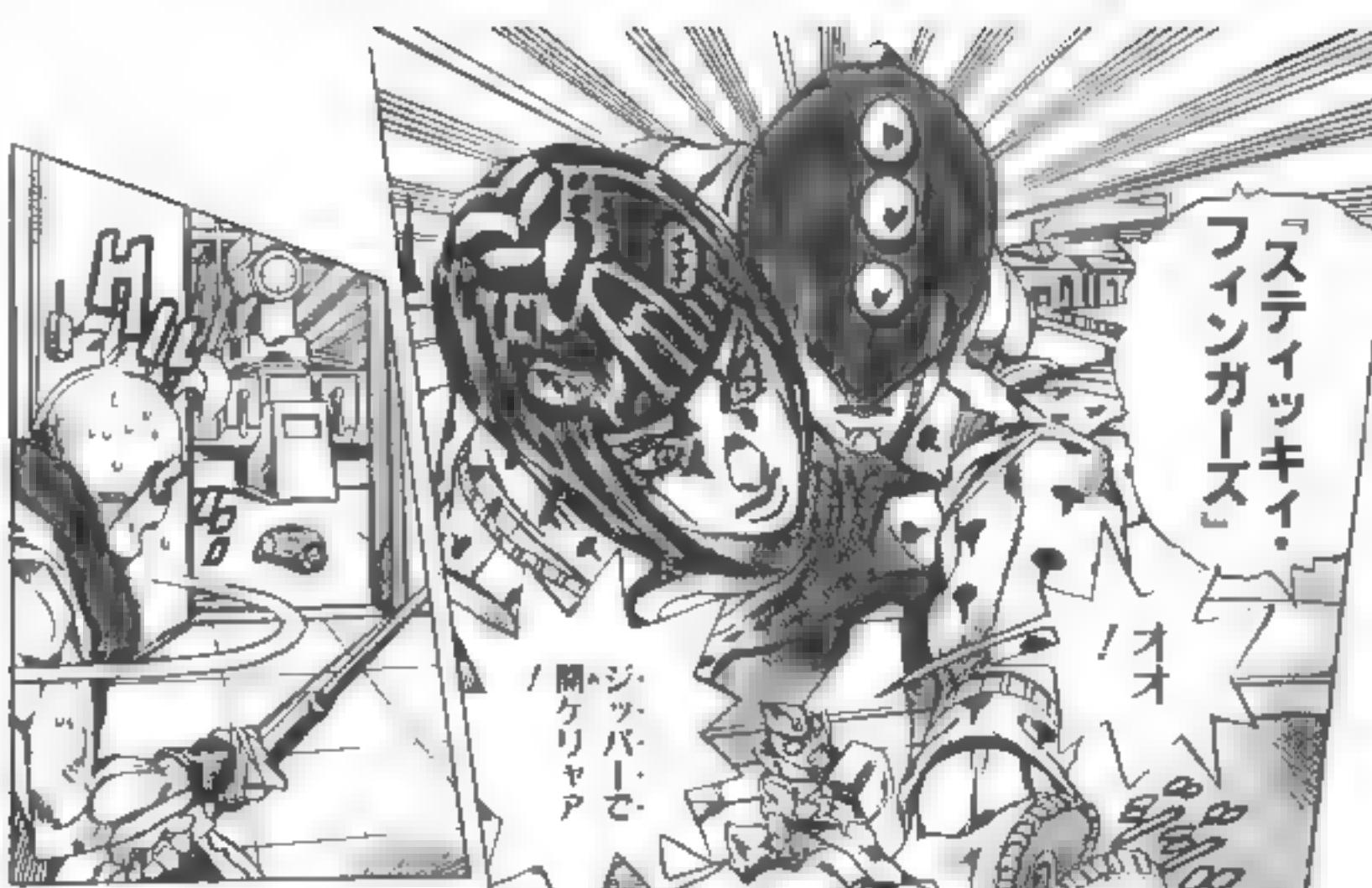
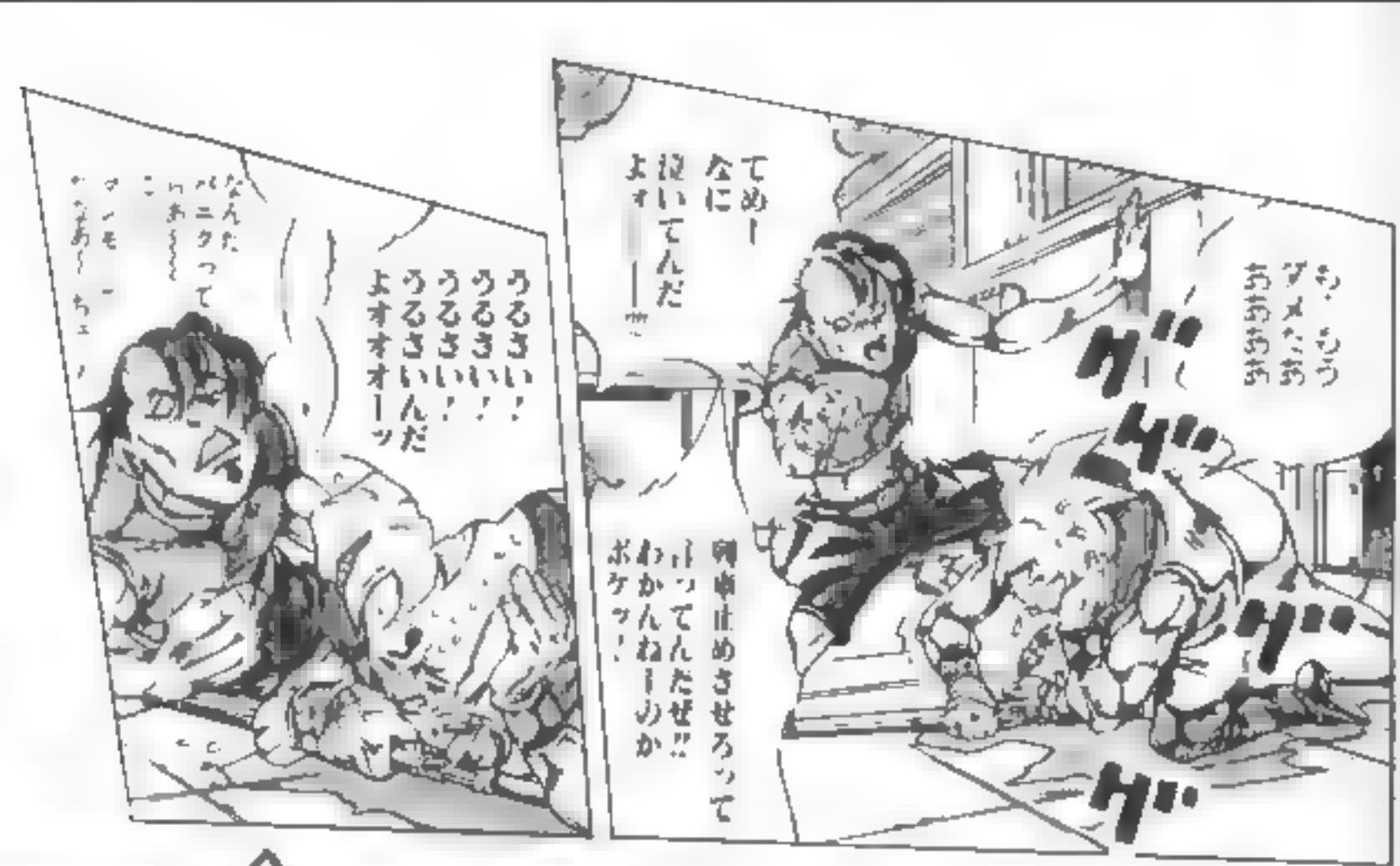
もしかしてハイてないのはオレの方か…
ミミスタのヤノが生きてたのが絶対に「おかしい事」だったんだ
弾丸を3発も脳天に撃ち込んでやったのに
ヤノが「生きてるのは」太陽が西から昇らないのと同じように「おかしい事」だったんだッ！
ま…
…まさか…
オレが伝エ 来タ情報ダ…
釣リ行ッ攻撃スルエネルギーハ…
釣フレタ者ニ帰ッテ行ク！
バカなッ

ボギョッ
ブチャラティイイイッ！
ゴバッ!!
やったぞ！兄貴ィ！体重がひとり減ったッ！
ブチャラティを突き落としたんだねッ！
!!

やったねッ！
プロシュート兄イ!!
危機一髪だったけどよォオオオオオオ――――ッ
偉大なる死
その⑧
オオオオオオ

ズズイ
「老化の能力」が解除されたようだ…元に戻っていく…
そしてこれで「亀の中」のジョルノやナランチャたちも復活してくるッ！
後ハコノ「釣り針野郎」ダケダ！
ソノ「針」モ早クハズセ！ブチャラティ！
オオオオオ

ドゴ
オオオ
偉大なる死（ザ・グレイトフル・デッド）
その⑧

よし！兄貴ッ！
今 列車の屋根に乗り移ったようだね!?
もう「針」をはずしても大丈夫だね!!
ゴゴ
チリ
チッ
ン!?
チリ
チラ

さっき……
オレの「ビーチ・ボーイ」の針先は 兄貴の
「右手」に食い込んだはず
『小指』が……
ビーチ・ボーイの「針」の「右側」にあった!
で・でも今は!!
これは「左手」だ……
小指は今!!
針の「左側」にある!
針の「右側」にある指は「親指」だ!

と
どういう事なんだよ…
こ…これは…？
さっき兄貴の右手に「針」を食い込ませて引っぱったのにッ！ たしかに「右手」だったッ！
で…でも今！ いつの間にか！ 食い込んでいるこの手は「左手」!?
この「糸」の先によォー ある「手」はいったいなんなんだ？
なんで兄貴の「右手」が「左手」に入れ変わっているんだよォオオオ
そ…そして思い直してみれば な…なんか微妙に兄貴！ 体重が重くなったような…

さっきよりはだいぶオレ！気分は良くなって来たが

歯と髪の毛が抜けちまったんだ!!

オマエ!! 聞いてんのか!! 早く運転手に列車を止めさせろッ！

まさかッ！

この糸から墜落したひとり分の「体重」っていうのはッ！

こ…こいつ「老化」が……

治って……

ま…まさか！

ララ

まさかッ！

うっ

うそだッ！

『スティッキィ・フィンガーズ』
オオ！
ジッパーで開ケリャア！
簡単ソノクソッタレの『針』が引ッコ抜ケルナ!!
のそ
のそ
う…うそだ！
うそだッ!!
あ…兄貴がッ！
ま…まさかッ！
聞いてんのか!?
ボケ！
そこのおまえだよッ！
オマエに言ったんだよッ！
オ…オレのプロシュート兄貴がッ！
う…うそだ！
どうしよう～
どうしよう～
オ・オレ…
ど…どうすれば……？
う…ううう…
うう～～～そんなあ
あああああああああ
あ…兄貴が
う…うそだ!!
亀の中のヤツらも
でっ出てくる!!
ど…どうしよう～
オ・オレ

も・もうダメだぁあああああ
グググ
てめー なに泣いてんだよォー
列車止めさせろって言ってんだぜ!! わかんねーのかボケッ!
うるさい! うるさい! うるさい! うるさいんだよオオオーッ
なんだパニクってわぁ～～
もう頼まなくてもいいぜ! ボケッ!
元気が出て来たから自分で止めに行かぁあーッ
ロ
ゴ
バ
ズキュ
ン
えっ?

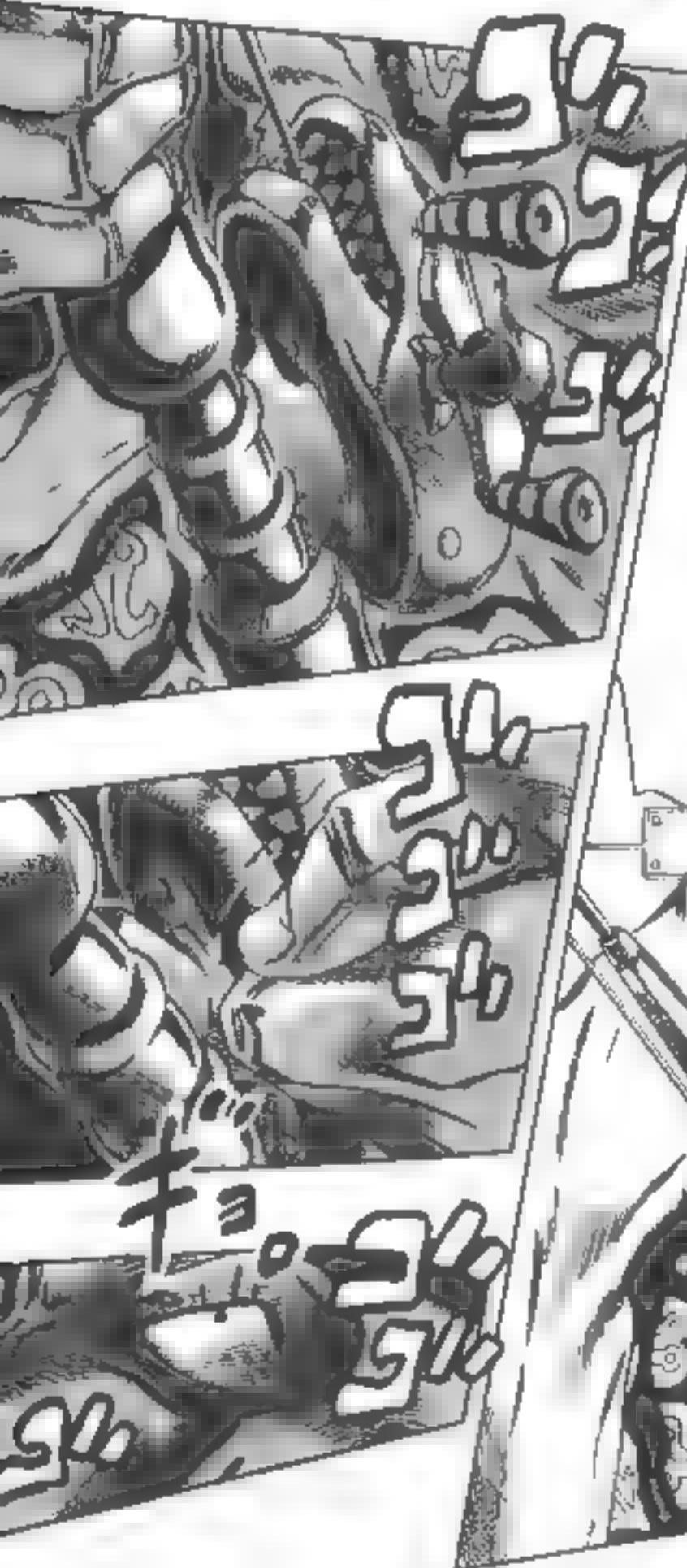
マああ
あああ
あタ
だあああああああ
!?
!?
とあああ
頼むゥううう
やっぱりイイイ
あああアンタが
あああ…
れっ妻あああを
止めエエエてエエエエ
医者ウウウオウオウウウ
呼んでエエエエエエ
グ
ろっ
!?
「老化」が
また
始まったッ!?
あヒィ
イイイ
イイイ
!?
「老化」は
止まってねえッ!
ど
どういう事だッ
オ…オレ
ヒ…チオ…ィカ斧に
ひっかかって
る…のは
こ…こいつは
ブ…チャ…ッテ…ィの
「左手」だ!!
でも
兄貴は!!
兄貴の能力は
消えるわけ
じゃあねえッ!

ナチャラファイ!?
あ アンタ!?
ば ばかなッ!
ドドドド
こ…この疲労感
ま…また始まったぞ!
ドドド
終わっていないぞ!!
まさか……
まさか!
あいつ!
なにイイ〜〜〜っ

ドドドド
兄貴イイイイイ

……グレイトフル・
……デッド
ドドドドドド
ドドドドドド
ドドドドド

イイイイイ
イイイイ
イイイ
オオオ
ゴオオオォ
本当に…兄貴…
うう っ
そのとおり…だったんだね
「いったん食らいついたら腕や脚の一本や二本 失おうとも決して『スタンド能力』は……
解除しないと」オレに言った事は!!

あ…兄貴
ギリギリのところで列車にしがみついている……
あんなグチャグチャの重傷じゃあもう兄貴は助からないッ！
息をひきとるのも時間の問題だ
だのに兄貴は自分の「グレイトフル・デッド」を解除しない…
何があろうともオレたちは「娘」を手に入れるんだね…兄貴
オレたちはもう後には戻れないんだねッ！
ギュ
ギュ
ギョ

わかったよ
プロシュート兄ィ!!
兄貴の覚悟が!
「言葉」でなく
「心」で理解できた!
ブッ殺すって
思った時は
兄貴ッ!
あう
う
ああ

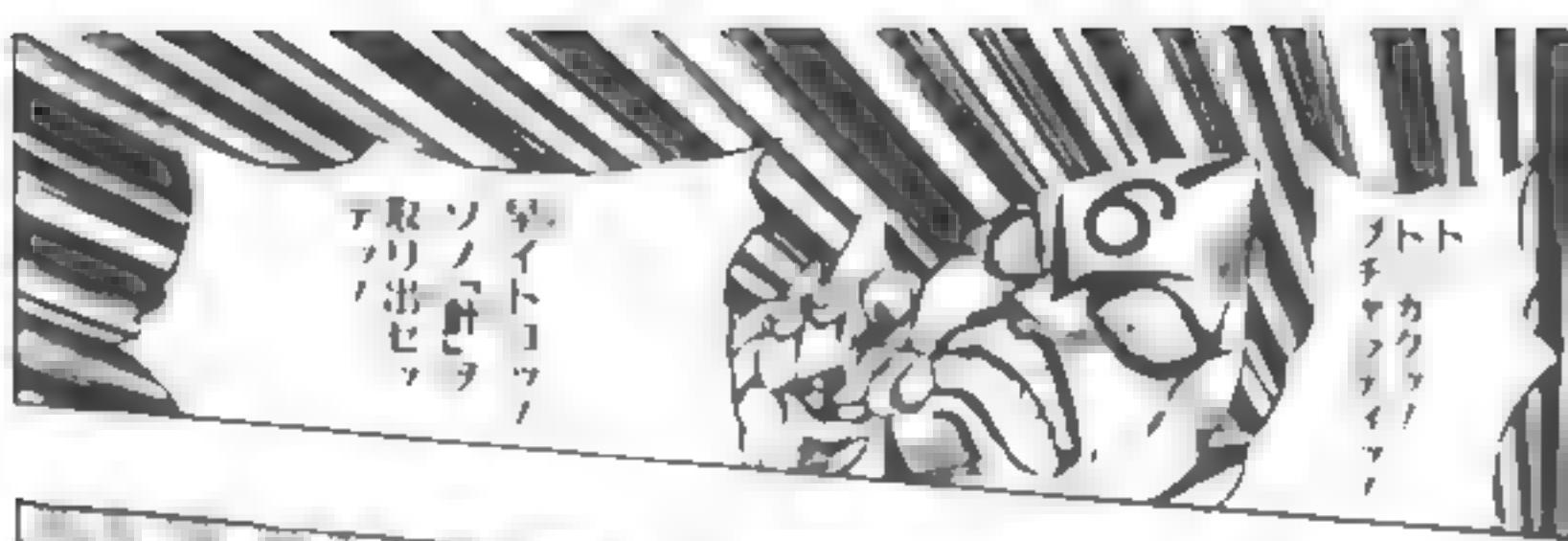
すでに行動は終わっているんだね
ゴキン
フゥゥゥーッ!!
初めて
人をやっちまったァ♪
でも想像してたよりなんて事はないな
そしてオレに向かって「マンモーニ」だなんて言えるヤツは
もう これで誰ひとりいねーからな…

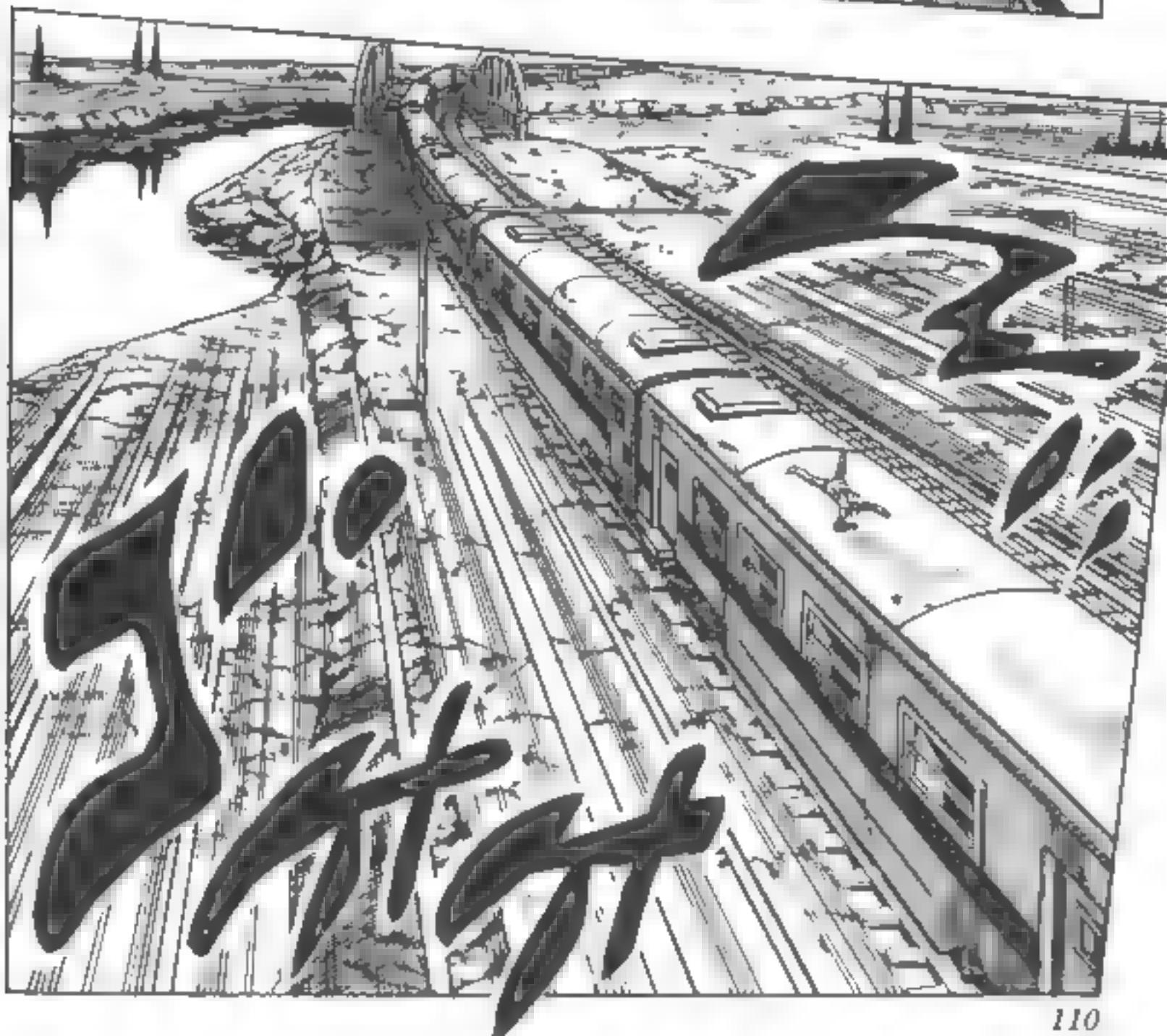
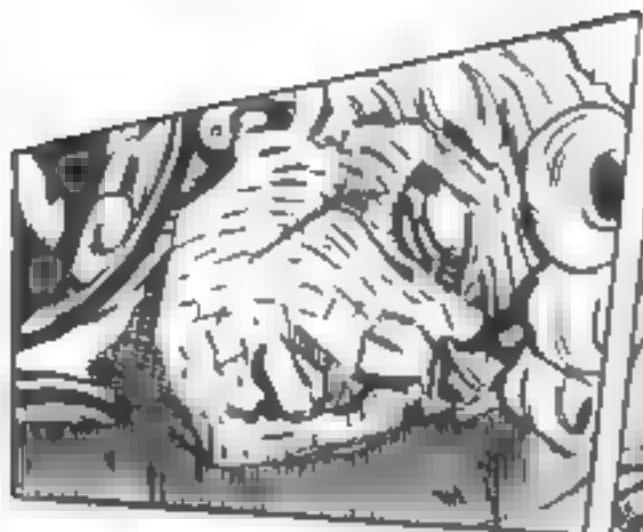
トト カクッ!
ノチャァナイッ!
早イトコッ!ソノ「針」ヲ取り出セッテッ!
殺しとってやるせ!!

!!
ここオレが何をしようとしているのかわかるのか!?
は…「針」がシャンプしたぞ…!!
何をしようとしているのか…ブチャラティ
ゴゴ
全て動きは読んでやる!そして兄貴が死ぬ前に!(グレイトフル・デッドの能力が消える前に!!
おまえとのカタはつけてやるッ!おまえさえ倒せば娘が手に入る状況にかわりはねえ!

偉大なる死 その⑨

ドゴォォォォ

こいつ「糸」で感じ取ってやがる…!

オレが何をしようとしてるのか読んでやがるッ

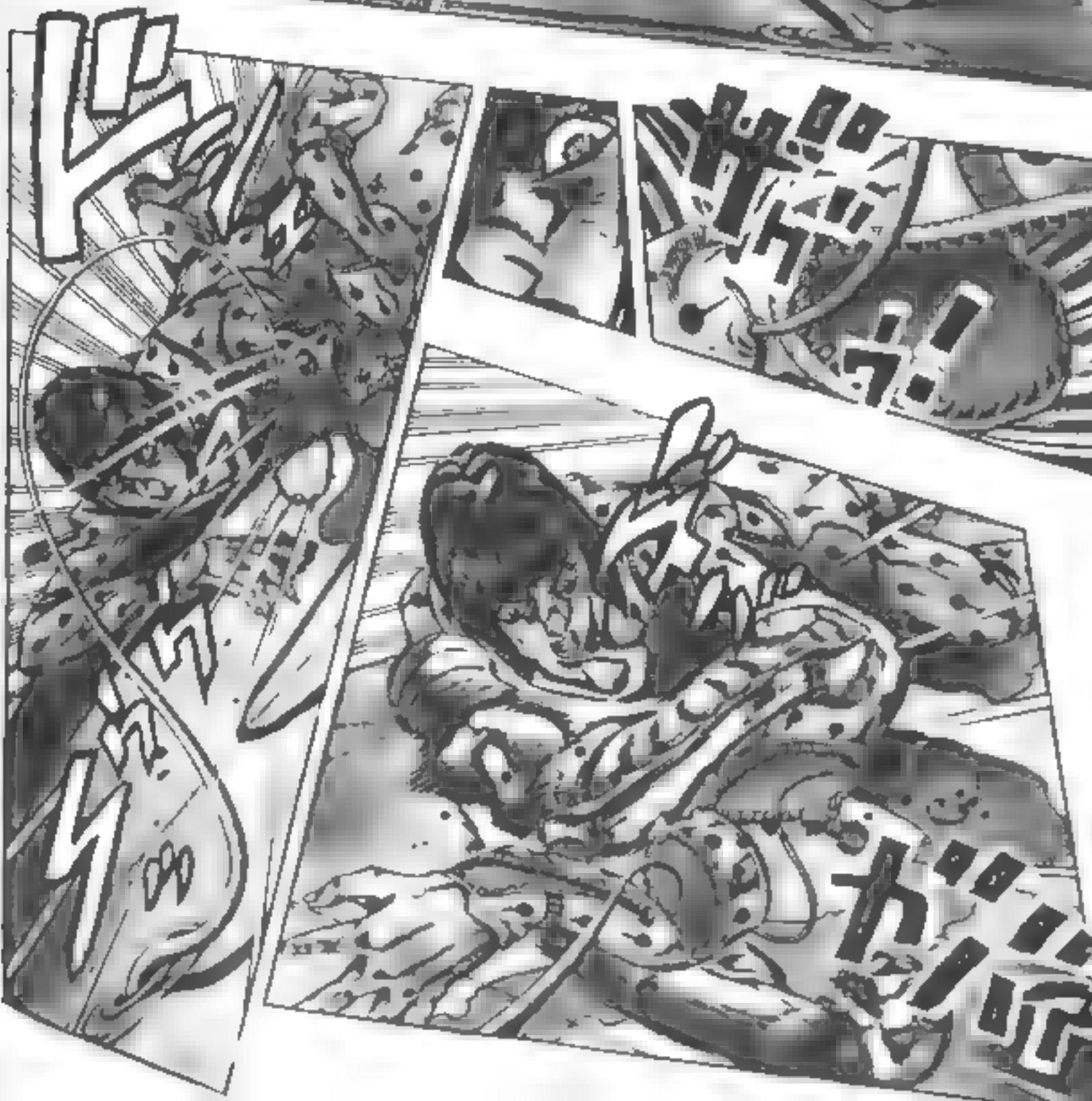
「針」は左手甲部から体の中へ進入し手首を通過した……

「前腕部」突入!

肘までの距離あと11センチ……10センチ!

偉大なる死(ザ・グレイトフル・デッド)
その9

「ミスタ」ノ時と同ンダ!!
「針」ガ腕ヲ トントン
穿ッテホルゼ! ブチャラティ!
「スティッキィ・フィンガーズ」!
また「針」が外に出た……!!
「ジッパー」で切開したな!

マッ マタノ
ジャンプ
シタアーーッ

だ　だめだ
正確すぎる!!

「針」を取り出そうとする行為は！

ほんの数センチ単位で「正確」に読まれてしまっている
しかも「パワー」もすごい！

前腕部内側から再突入！

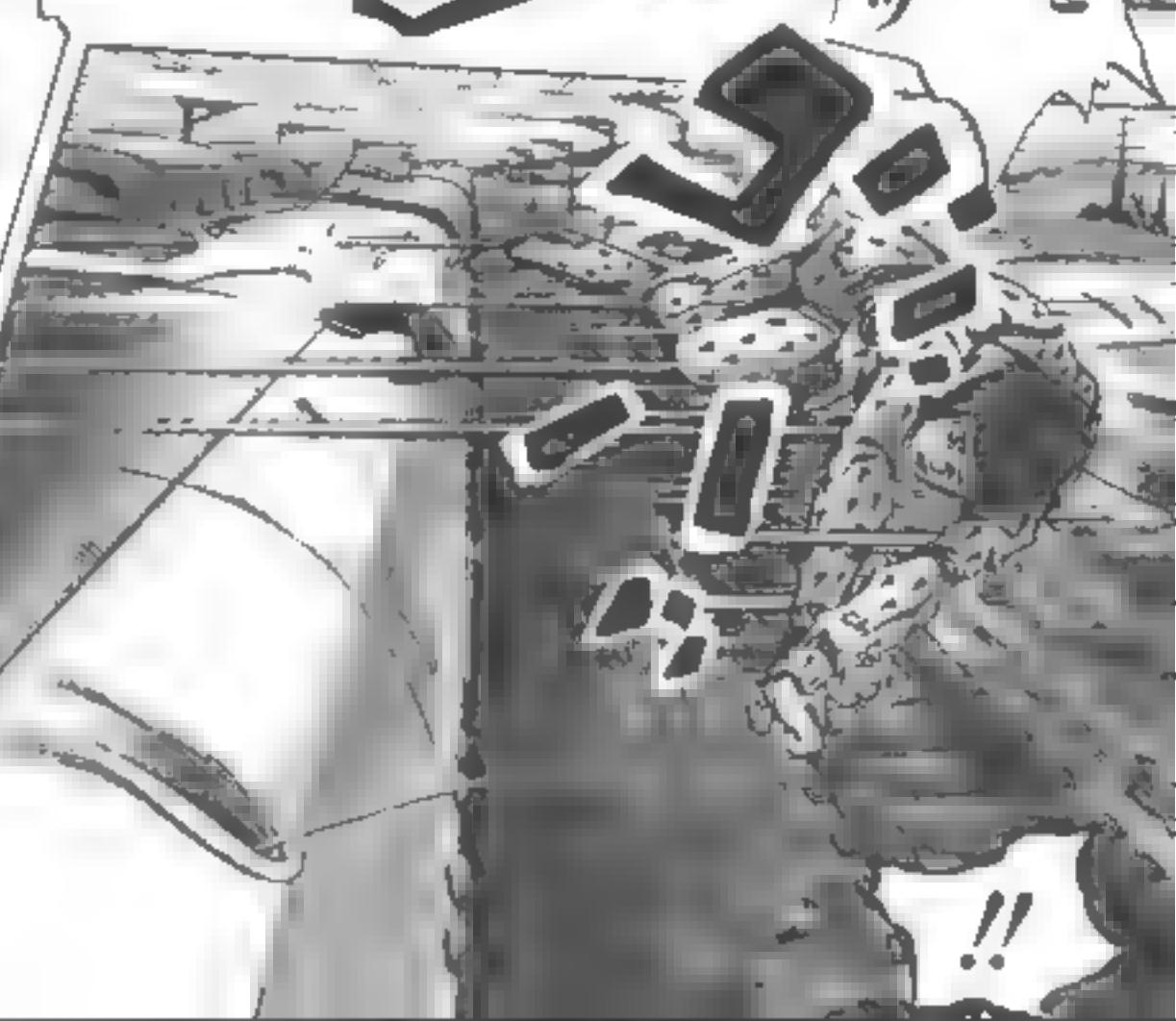
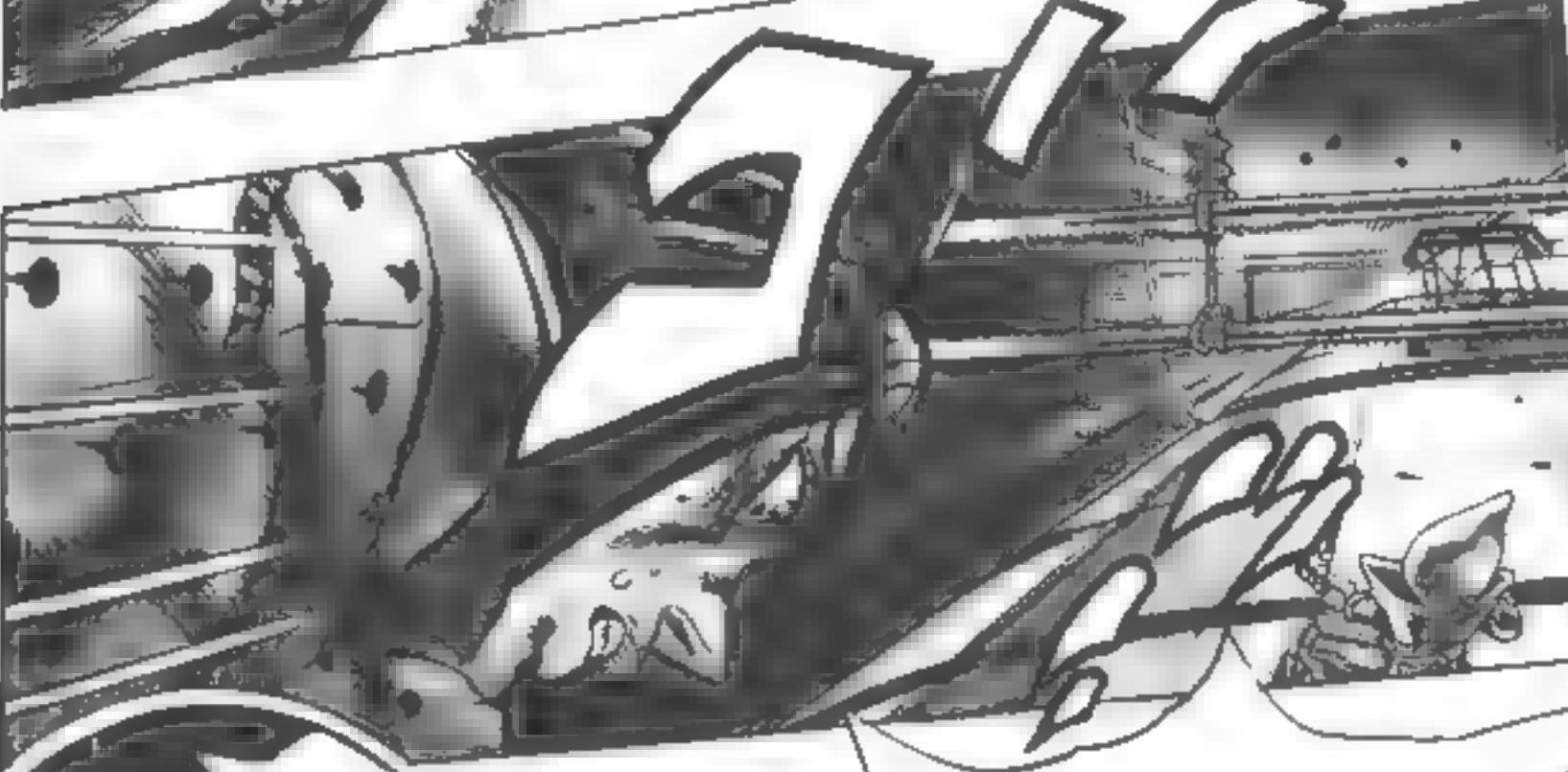
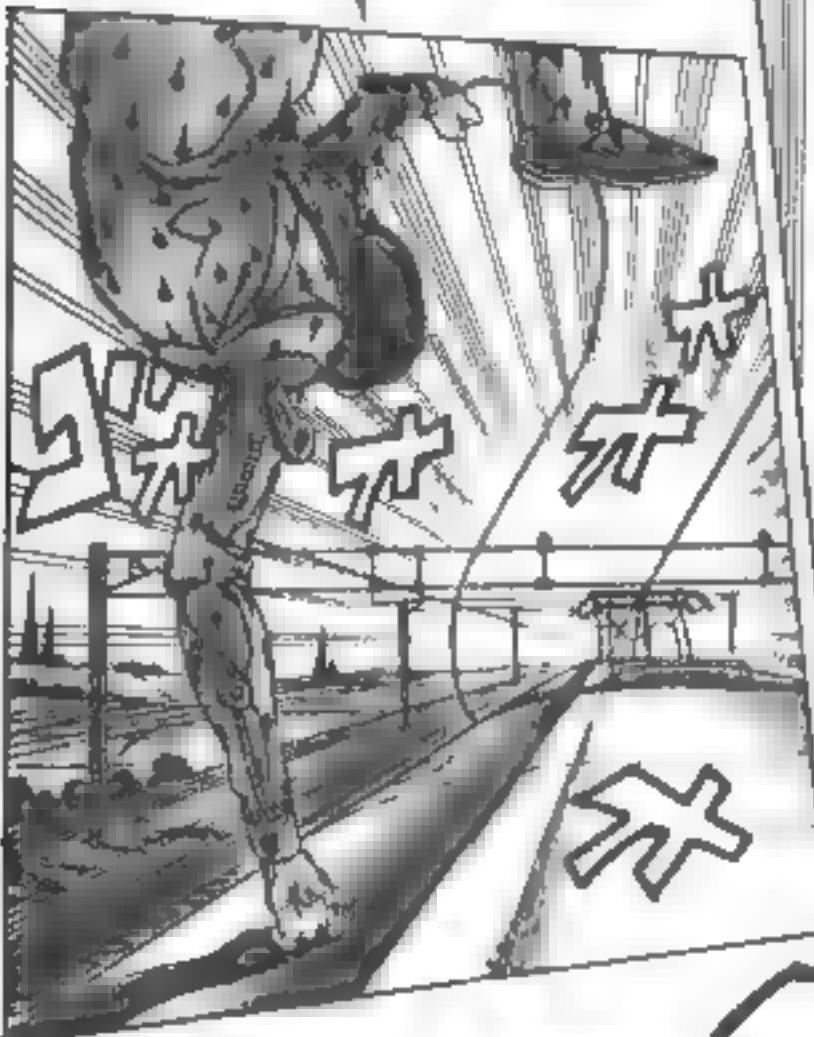
肘までの距離あと4センチ!!

3センチ!!

「針」を瞬間腕の外に取り出したところで　絶対におまえの体を見失うものか…ブチャラティ！

ビーチ・ボーイの「針」は腕を登っていき心臓に食らいつくだけだ！

そして『娘』をゲットして
プロシュート兄ィの意志はオイラがとげるッ！
肘まで2センチ！
1センチ！
肘部通過ッ！
「下の野郎」

アイツノ
トドメを
刺スンダッ！
ブチャラティ！
「下の野郎」ヲ完全ニ「始末」スレバ「亀の中」ノジョルノたちガ老化カラ復活シテ「糸のソイツ」ヲたたいてクレルッ！
わかってる
だがどうやらそれもムズかしいようだ…
ひっぱられるッ！
「針」がおまえの心臓に食い込むのを待つ前に…
もうひとつおまえを始末するやり方があったよ…！
うぬうううおおお

ビシッ
兄貴と同じ苦しみを
味わうんだなあ——ッ
ゴッ
うおおおおお
!!

ブチャラティ——ッ
オオ!?
屋根の何かにつかまったな……
……そうか
ブチャラティめ「力」をこめて必死に下に落ちないようにつかまっているってわけだな
それじゃあ「上」へ行くんだなあ——ッ

ダダン
!!
なにッ!
ドォォォォ
ゴ
電線ガ突っ込んで
クルゾッ!
体が高スギル
!
ブッた切ら
れろ!

うぐおっ

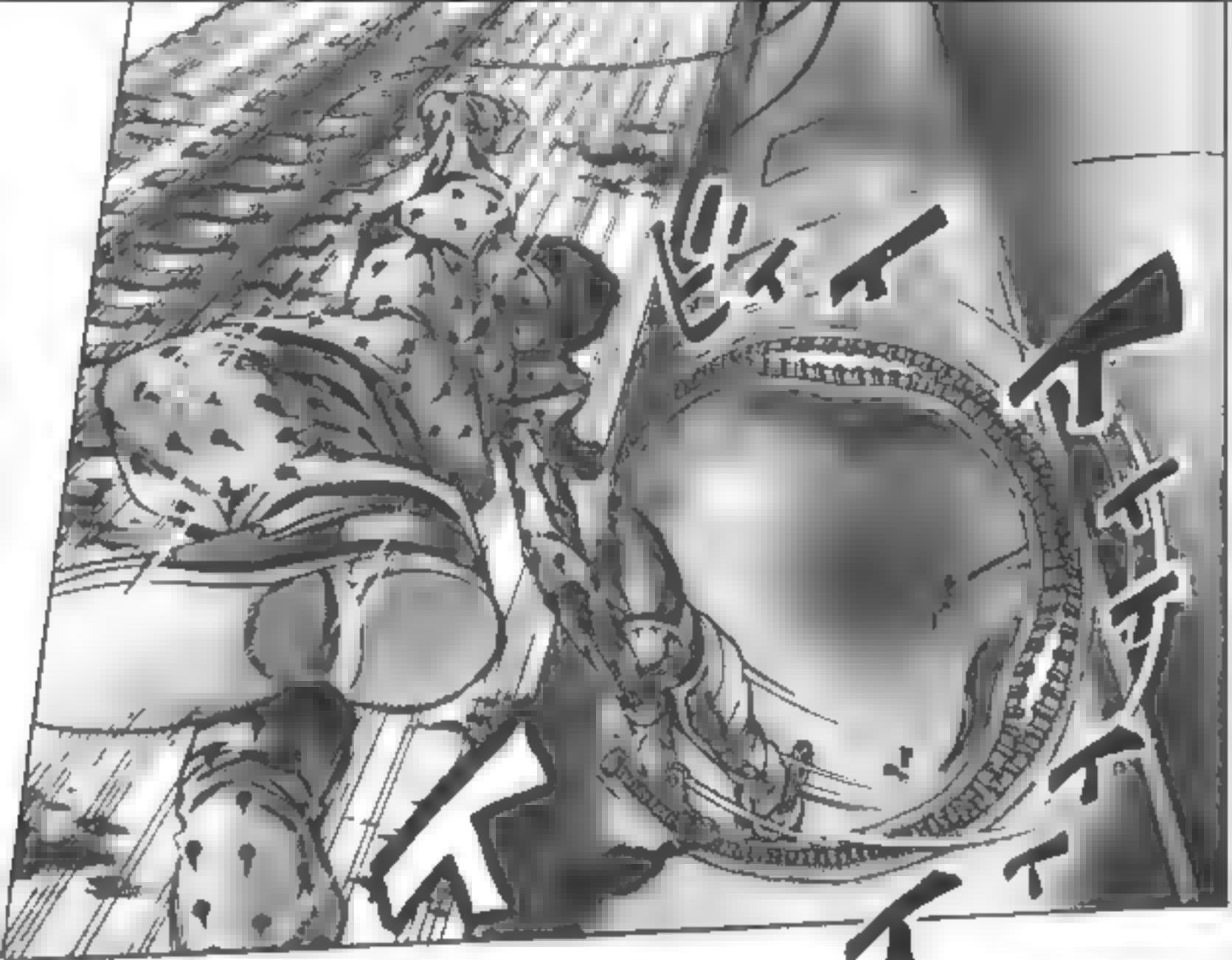
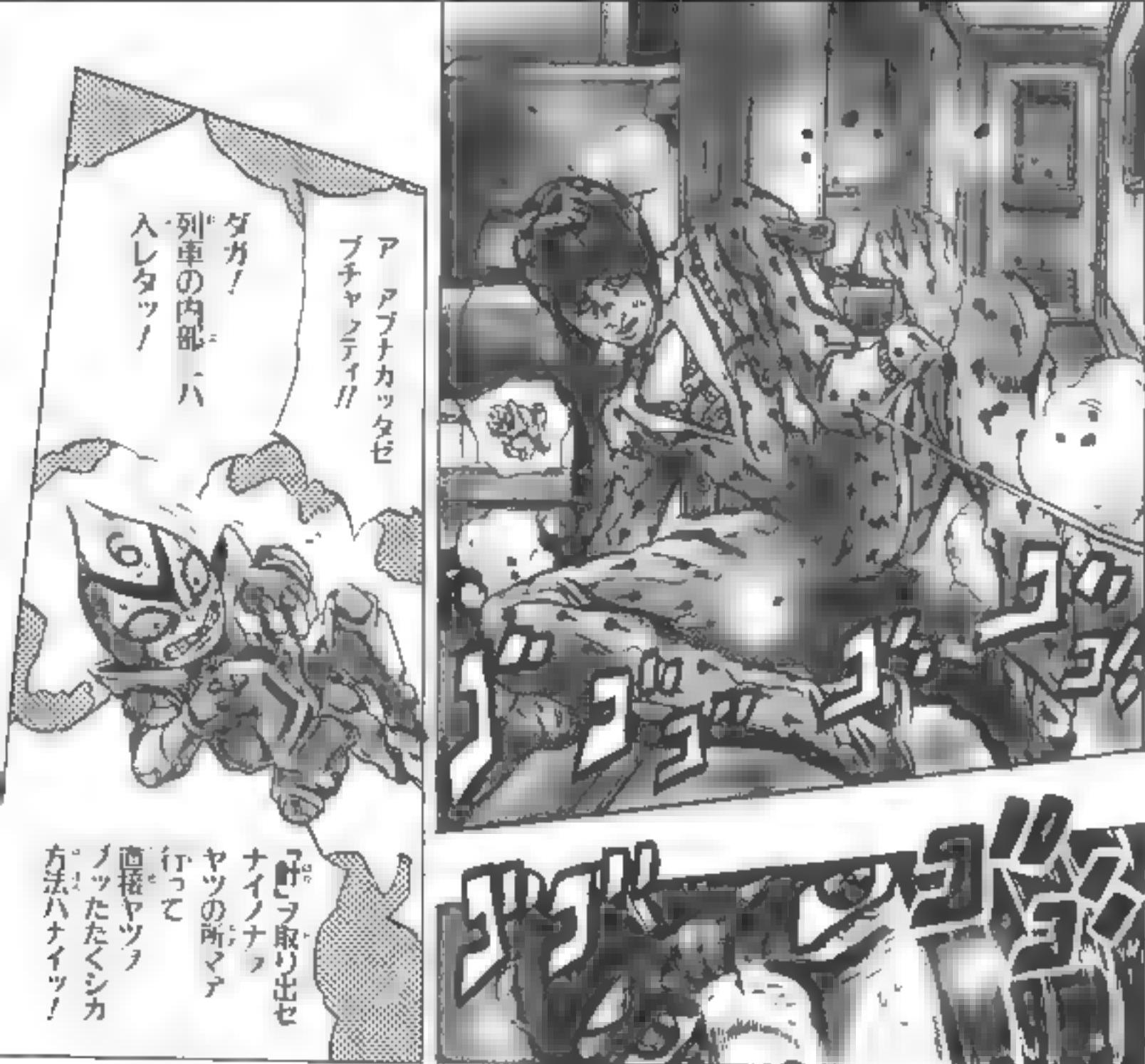
………
………………

ム！

衝撃はあった！……だが電線にブッた切られたわけではない…
……かといって落ちたわけでもない
「糸」に脈拍を感じる！まだ無事だ…ブチャラティは…
ヤツのいる場所は…「入った」な…
何をやったのかはわからんがさすが兄貴を突き落としただけの事はある

ゴオオオオオオーン

列車内部に入り込んだな！

ア アブナカッタゼ ブチャラティ!!
ダガ! 列車の内部ハ入レタッ!
「針」ヲ取り出セナイノナラ ヤツの所マデ行って 直接ヤツヲノッたたくシカ方法ハナイッ!

間に合わない「針」は今！
胴体に突入しちまった！
!!!
地面にたたきつけて兄貴と同じ苦しみは味わわせる事はできなくなったが
「針」は今、上腕骨関節下部を通過し胴体突入！
心臓までの距離あと13センチ!!

ドドド
12センチ
11センチ
外の老化の男さえ倒せば もうオレたちの勝利かと思っていた
だが甘くみていた
この列車の中で本当にやっかいなのは「老化させる能力」の男の方ではなかった
真に恐ろしいのは………!!
ドドドドドド
ドドド
この「釣り糸」の男の方だった!
だからドーダッツウンダヨーッ心臓に針ガ食イ込ンジマウゾ!!ブチャラティィィーッ
9センチ
8センチ
ドドド
この男を倒すには!
だから見せつけるしかないんだ!
こいつ以上の「覚悟」がある事を!!

こいつ自身に見せつけるしかねえッ！
何やってんだ ブチャラティ!!! 教エタダローッ 糸ヲ攻撃スル「力」ハ 一〇〇%自分に帰ッテ来ルンダゾォッ!!!

スティッキィ——・フィンガーズ
ブチャラティィィイイ!?!?

また切開したな
何度「針」を
取り出そうとしても

無駄だって
事が
まだわかか…

ム
!?

!?

!?

バゴッ

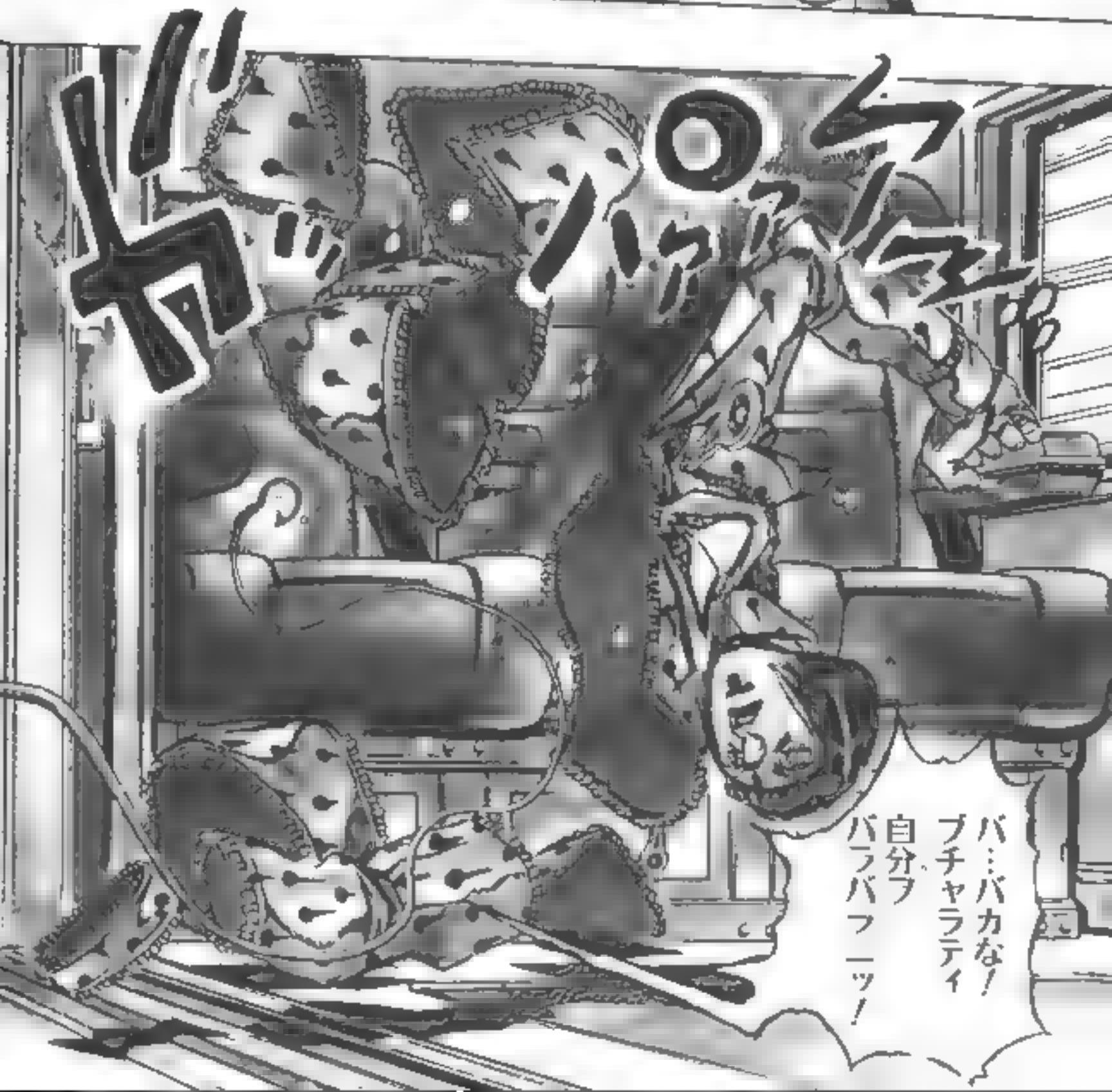
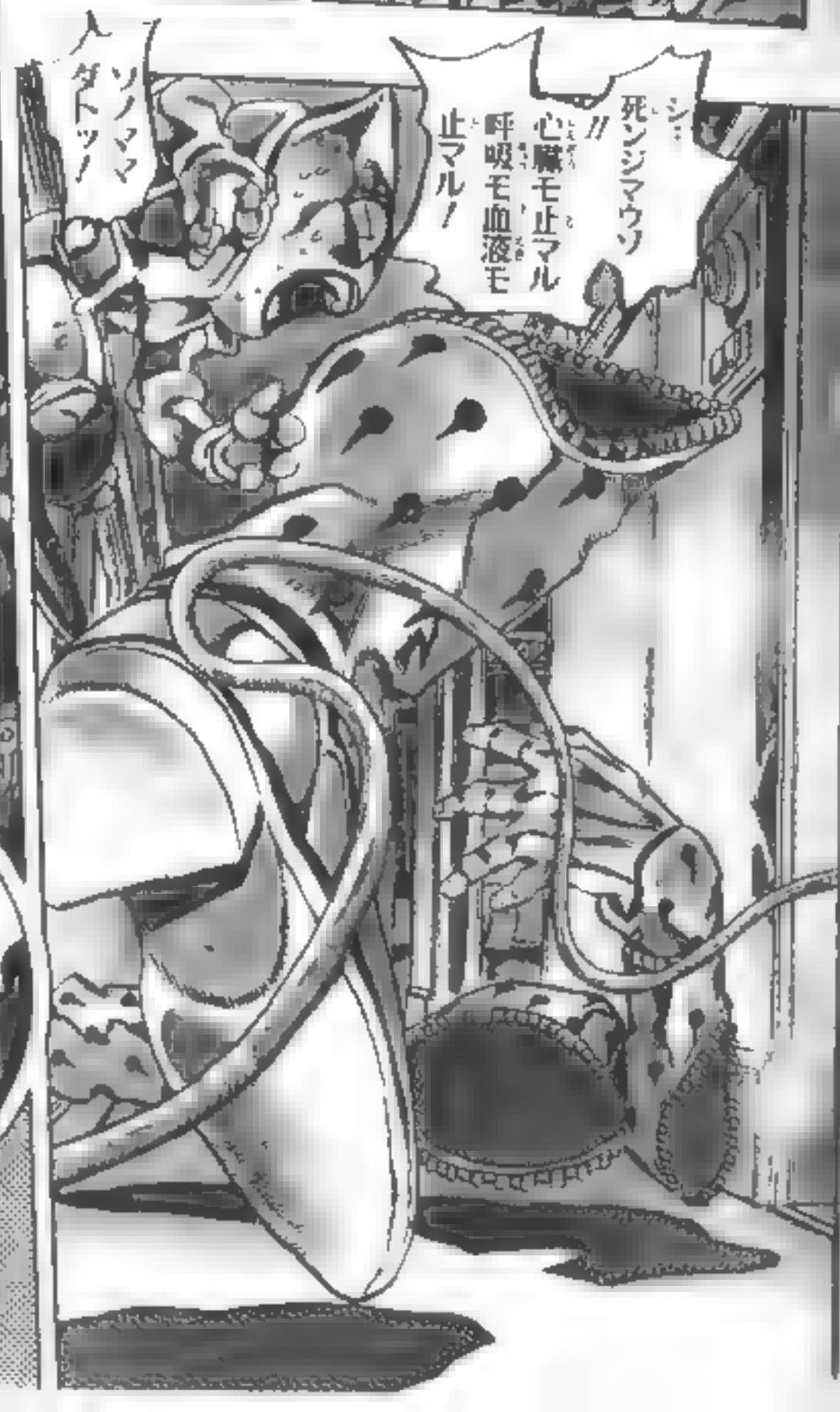
パァァ

バ…バカな!
ブチャラティ
自分フ
バラバラフ ーッ!

シ…死ンジマウゾ!! 心臓モ止マル 呼吸モ血液モ止マル！
ソノママダトッ！
せ・切断して「針」をまた外に出したのは たしかだ……
だ…だが… し…心臓の位置が……!?!?
な なにをしたんだ!? どこだ？ ヤツの心臓は……!?
い…いや… 見失うはずがないっ！
ブブチャラティの「体」を見失うはずがないッ！
「覚悟」ってのはこういう事だぜ・NO6……

偉大なる死（ザ・グレイトフル・デッド）その⑩
今！アンタノ血液ハ頭脳ニ来テイネェーンダゾッ！
呼吸モスァー止マッテイルッ！
ナンテ事ヲスルンダブチャラティ……
ダッダガヨオオオッ！
確カニコレシカ方法がナイのはワカル！

偉大なる死（ザ・グレイトフル・デッド）
その⑩
体ワココマデバラバラニスルッテ事ハ・・・スグニ行ッチマウッテ事ダゾオオオー

いきなり消えたんだ…
「呼吸の振動」を
なんて感じねえんだよォ…？
ちくしょう！
なんでヤツの気配を
見失ったんだ…!?
ブチャラティは
「ジッパー」で
壁やゆかを
開ければ
どこへでも
行ける！
ひょっとして
ど…
どこかから
ここに向かって来て
いるのか…？

ヤツが一瞬のうちに そんな素早い事を
できるはずがねえ!!
落ちつくんだ!! 疑心暗鬼は心の弱さだ!
プロシュート兄ィなら
きっとこう言ってくれる!
「自信を持て! ペッシ
おまえなら 動く列車内だろうと
絶対にヤツの心臓の鼓動を
感じて探し出せるはずだ」ってな!
ブチャラティ!
何を やったのかは
わからねーが……
絶対まだ
「針」の近くにいる
はずなんだあ
──ッ

イ……糸ヲ……!!
たっ……大量ニ伸バシテ来タリッ！サ…去ルドコロカ
徹底的に探ス気ダアーーッ
早ク体ヲ戻シテ逃ゲルンダーーッ
いい…いや……
「逆」だ
「糸」を…部屋中に伸ばしはじめたってことは……
逆に
オレを「見失った」って事を意味している証拠だ…!!
このまま…
このまま何ごとも…
…………動かさないでしばば切り抜けられる！
今は何もしないってのが……
……オレの「覚悟」だ……!!

「心臓の鼓動」だ
脈の流れ…
だが
こいつは
ブチャラティ
ではない…
「体重」が
さっきと
違う…

どんな小さな「動き」までも感じとってゆがめる

「時計」や「ヘッドホン・ステレオ」までも

ダッ　ダメダ！
かすかに　動イテル
心臓ガ見ツカルッ！
早く元に戻ッテ
逃ゲルンダァーッ

ナンテ事ワッ!!
何モ「しない」ッテ

カ・カスカ 動イテアル心臓の動キノアモ半分 シテ完全ニ止メテシマッタッ!

人間ハ「呼吸ト血液」ヲ止メテトノクライ生キテラレルノダロー!?モウサッキカラ ズイブン時間ガ経ッテイル 「ゲ…限界」ダッ!

はッ!!

ま まさか!
ブチャラティの野郎
外の「プロシュート兄イ」の命のトドメを
完全に刺そうとして兄貴の所に
向かっているんじゃあ!?
あ…
兄貴の
「老化」の能力を
止めれば
亀の中の仲間が
復活して出てくる
ちくしょおお〜〜
ちくしょおお〜〜

そおおおは
させる
ものかァ
アアアアアアァッ

「針」が戻ッテ行ッタゾッ！
ヤ…ヤッタゾッ！
ブチャラアイツ！
ココヲ アキラメテ戻ッテ行ッタゾッ！
アンタノ覚悟ガ
ヤツノ追跡ヲ
ハネ返シタンダ
ヤ…ヤッタァーッ
く…
切リ抜ケレタンダコッ！
早く「ジッパー」ヲ
体ヲ元ニ
戻スンダ
ーッ!!

早ク　シロォ――ッ！
ああ
わかっ
ギリギリだったか……！
でも……
なんとか……動ける……
戻す…んだ？体を…
「ジャバ」で
アア！早クシロ！
早ク心臓ヲクッツケテ動カスンダ！

なンダとオオ
オオオオオオオ

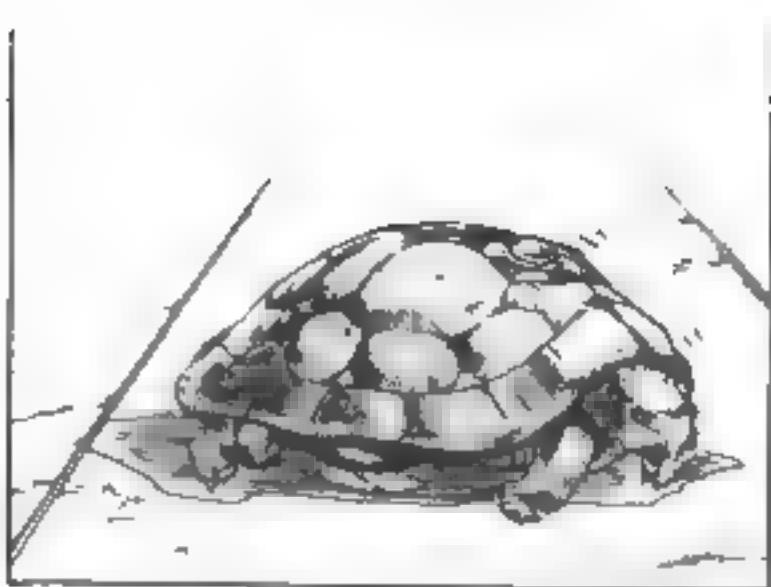
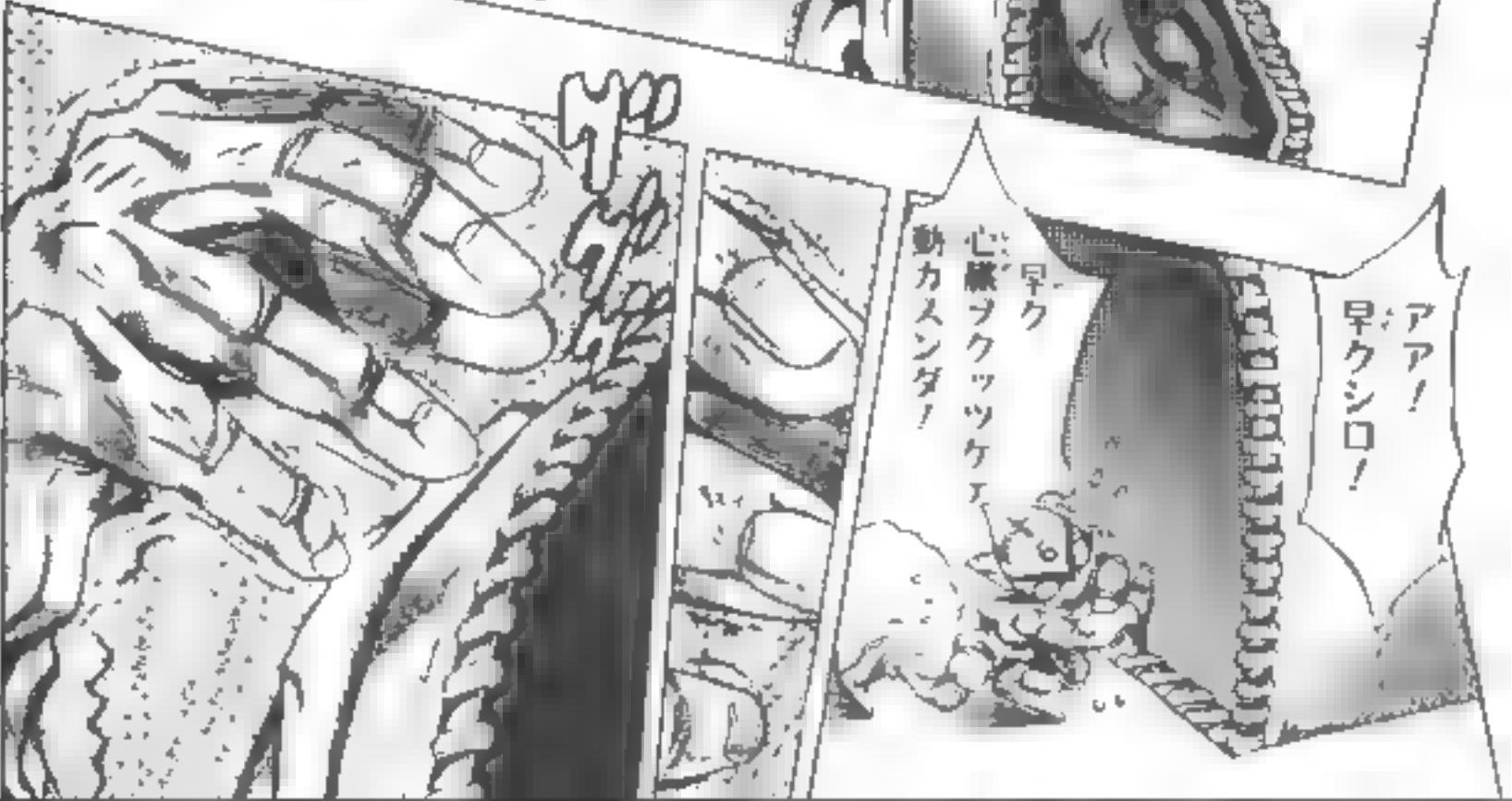
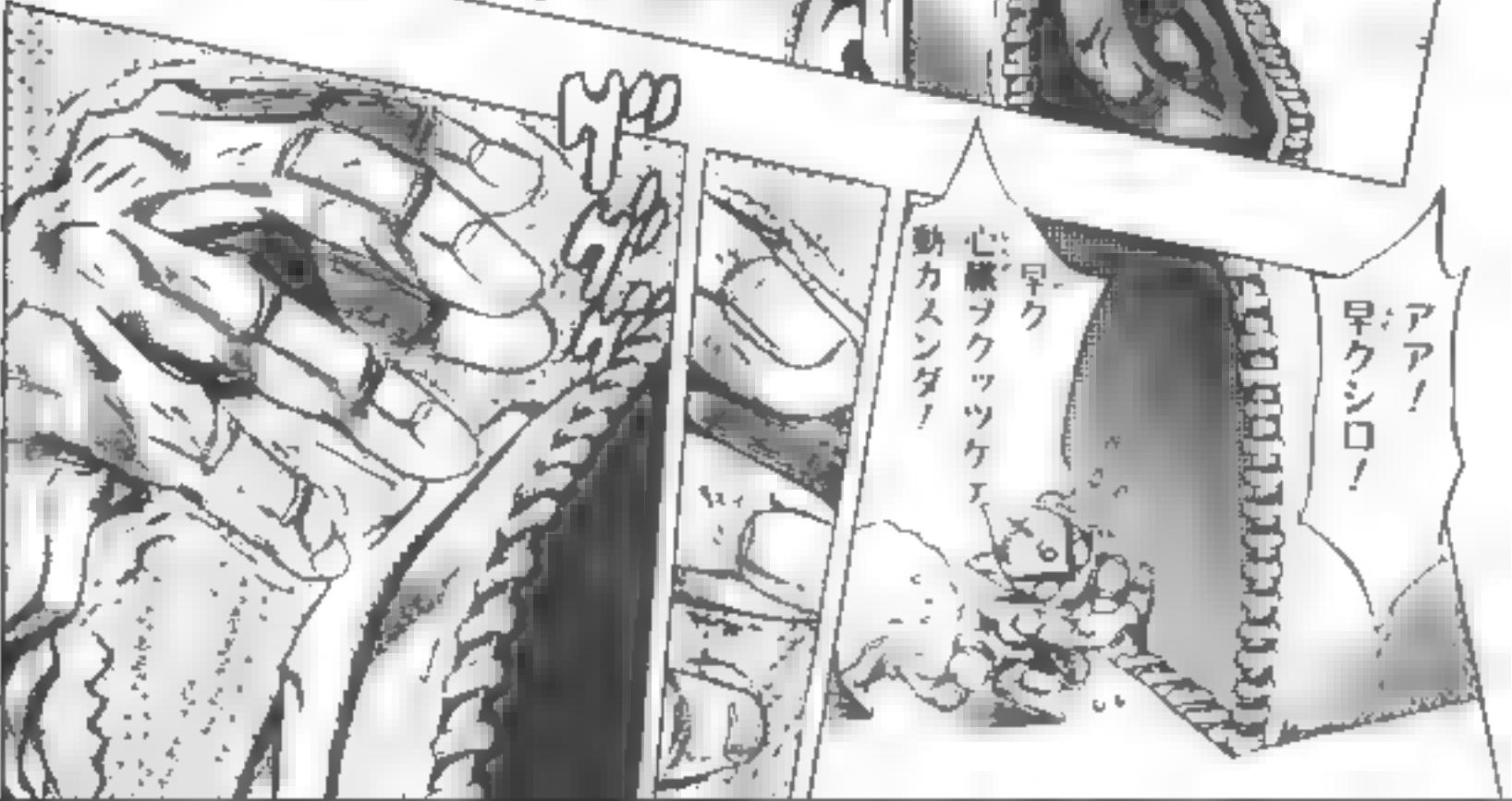
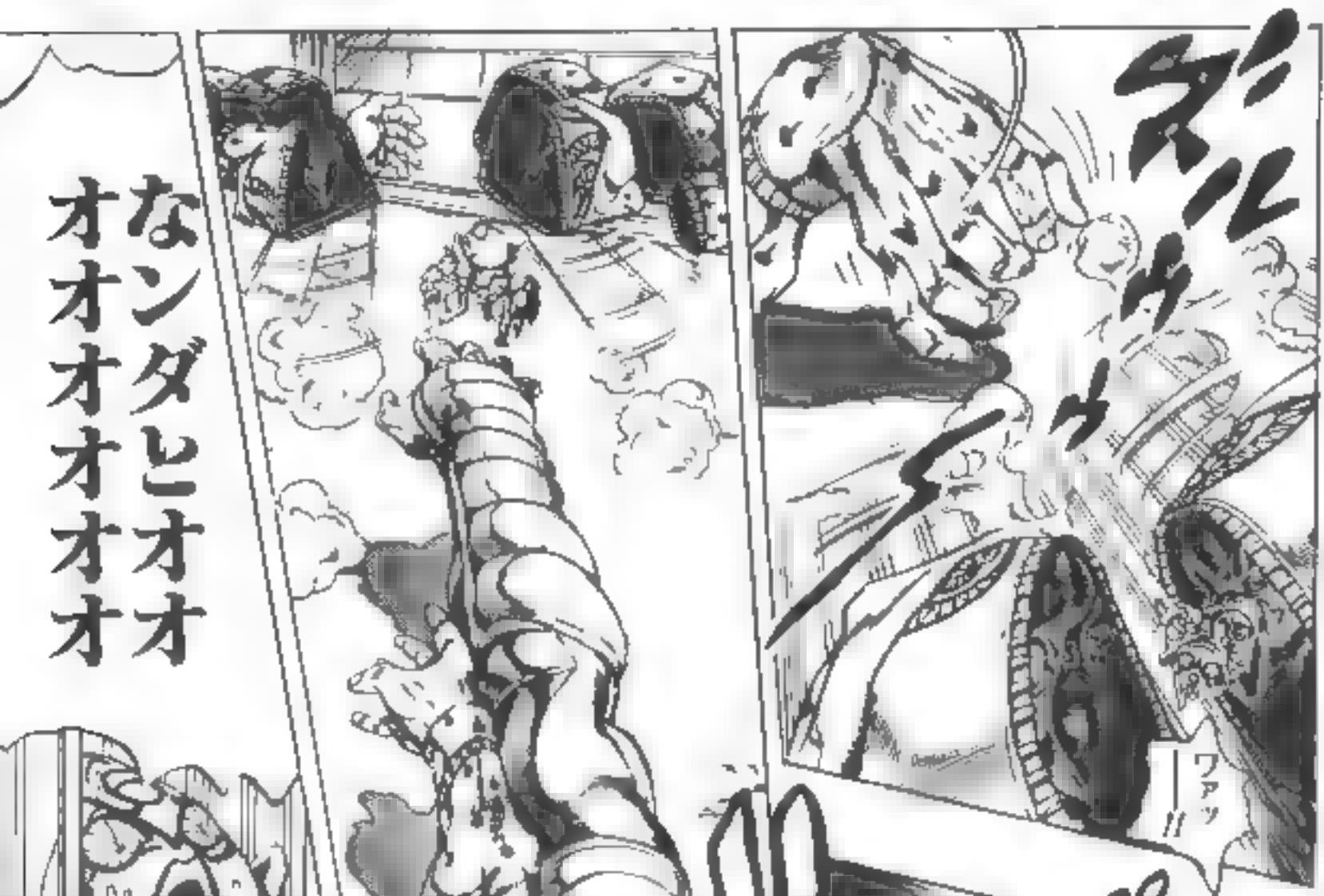
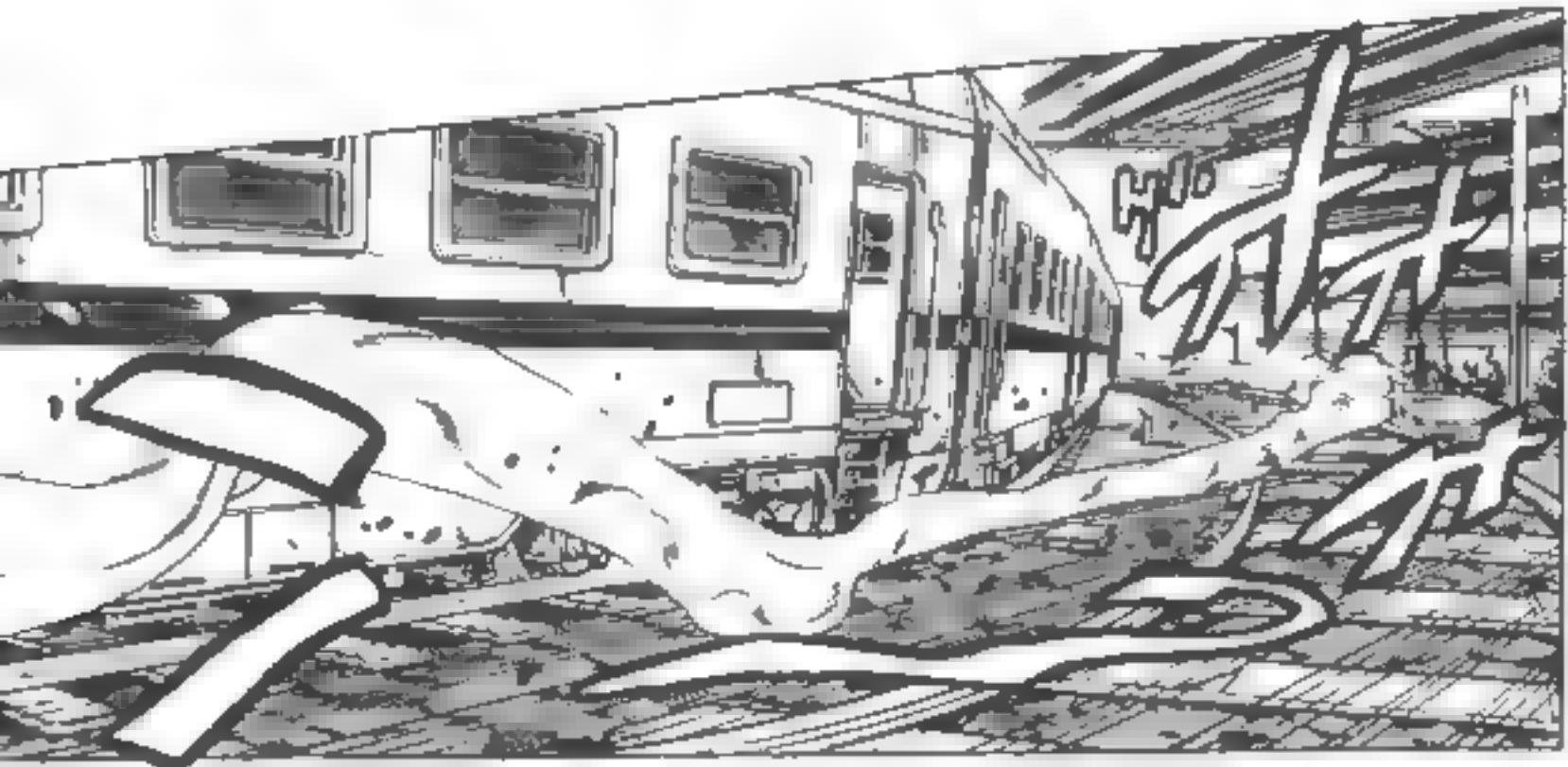
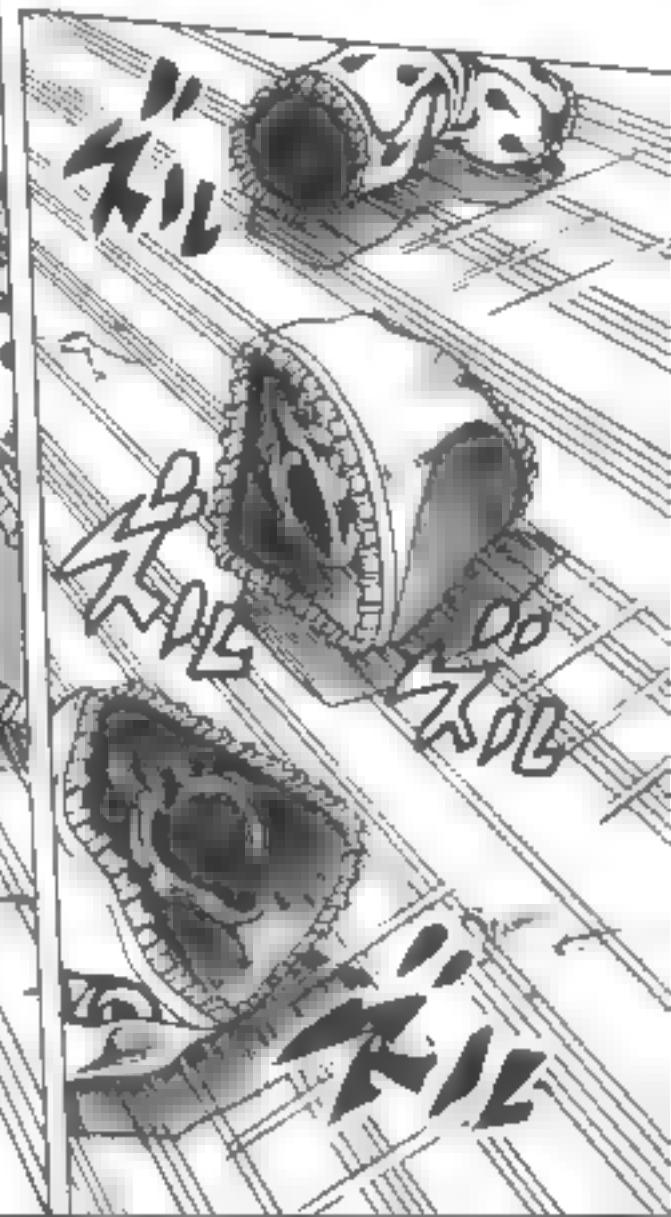
ワァッ

ついて
意識か
あんな距離 オレには どうにも 届きそうに ない…
オレの専門能力ハ「弾丸操作」ダッ！ オレ自身ハッ！ コ…コンナ デカイ物ヲ 動カスナンテ「エネルギー」ハ
持ッテネー 不可能ダーッ
ブチャラティーーッ
目ヲ閉ジル ナアアアア アアアアア

兄貴のところに
行かせたり
するものかッ!!
きさまなんかに
兄貴の命のトドメを!!
うおおお
おおお
刺させたり
するものかァーーッ
このクソ
列車!
止まれエ――ッ

なッ…ナンダァアー!?

ガバッ
はっ!!
兄キイイイイイイイ

列車が止まった！
こいつが止めたんだ！
兄貴を始末されると思い違えてこいつが止めたんだ！
それがブチャラティの命を救ったブチャラティの「覚悟」の勝利だ
そして近づいた「最後の一騎討ち」だ

何よりも『困難』で……
『幸運』なくしては近づけない道のりだった
ドドドド
おまえに近づくという道のりがな……
ドドドドドド
偉大なる死 その⑪

ドドド
ザ・グレイトフル・デッド
偉大なる死 その⑪
近づけた!! タカガ「幸運」ナンカジャナイ!!
ブチャラティの覚悟ノ勝利ダ!!

ボロッ
ボロ
ボロッ
ボロ
ボロッ
兄貴とかイウヤツ「スタンド」ガドンドン崩レテイル…モウスグ死ぬぞ！ツマリ「老化ノ能力」モ弱マッテいるッテ事ダッ！
コイツよ
ブチャラティガ有利ダ！
カモコノ距離マデ近ヅイタラ！
コノヤツハ アノ「針」ヲ飛バシテ攻撃シテ来るだろうが…
「スティッキィ・フィンガーズ」ノパワーとスピードナラ…
見切ッテヤツをタタけるッ！

スッ
ムッ
パキョ
チリチリ
チリチリ
ブラァァーン
ド…ドウカシタノカ!?
今ノハ!?

なぜ さっき おまえの心臓の 動きを 見失ったのか わからねーが
全ては オレが オメーにここで 兄貴への償いを させる事て
オレたちの「任務」は 終了するッ！
「スティッキィ・フィンガーズ」
老化している わりには さすが接近戦は お得意の「スタンド」
今の 攻撃 よく「見切れ」た な…
なんだァ アァ ーーッ!!
ドビュッ

せ「正確」じゃあ ネーカッ
も…ものスゴイ スピードと 「正確」な動きで 「針」ヲ投ゲテイタッ！
ブチャラティ あ あの「針と糸」を くぐり抜けて ヤツヲ タッ— タタケルノカ!?

ゴゴゴ
こいつのこの「面がまえ」……
さっき運転室で見た時は
こんな「目」をしてる男では
なかったぞ
まるで「10年」も修羅場を
くぐり抜けて来たような
スゴ味と
冷静さを
感じる目だ
たったの数分で こんなにも
変わるものか
こいつには
小細工は
通用しねぇ
ゴゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ
栄光は
あるぞ
それ……

兄貴が逝っちまう前に兄貴の目の前でよオオオオオ――
い…「」ヲ取リ戻シテイル……
有利と言ッタケド！
ヤッヤバインじゃネーカッ！…
コイツ死ぬ前「老化の力」ヲふりしぼるリッ！
ソシテ アノ「釣り竿」のスピード…
ブチャラティ ふ…不利かもッ！

償いは させるぜェェェェェ────

見切ッテくれェーー
ブチャラティイイ
イイイイイイイ

ナニィ〜〜〜!!
カワサないデ
針ニ
突ッ込ンダッ!

ドドドドド
イイヤッ
ガードしたんだ
ーーッ
ナ…ナルホドッ
針ガ腕から
心臓ニ登ッテ来ルマデニ
数秒 時間ガアルッ
それまでにヤツを
タタクツモリダッ
ヤツの鼻先マデ
突ッ込ンデッ

思ってたせ…
突っ込んで来るってな…

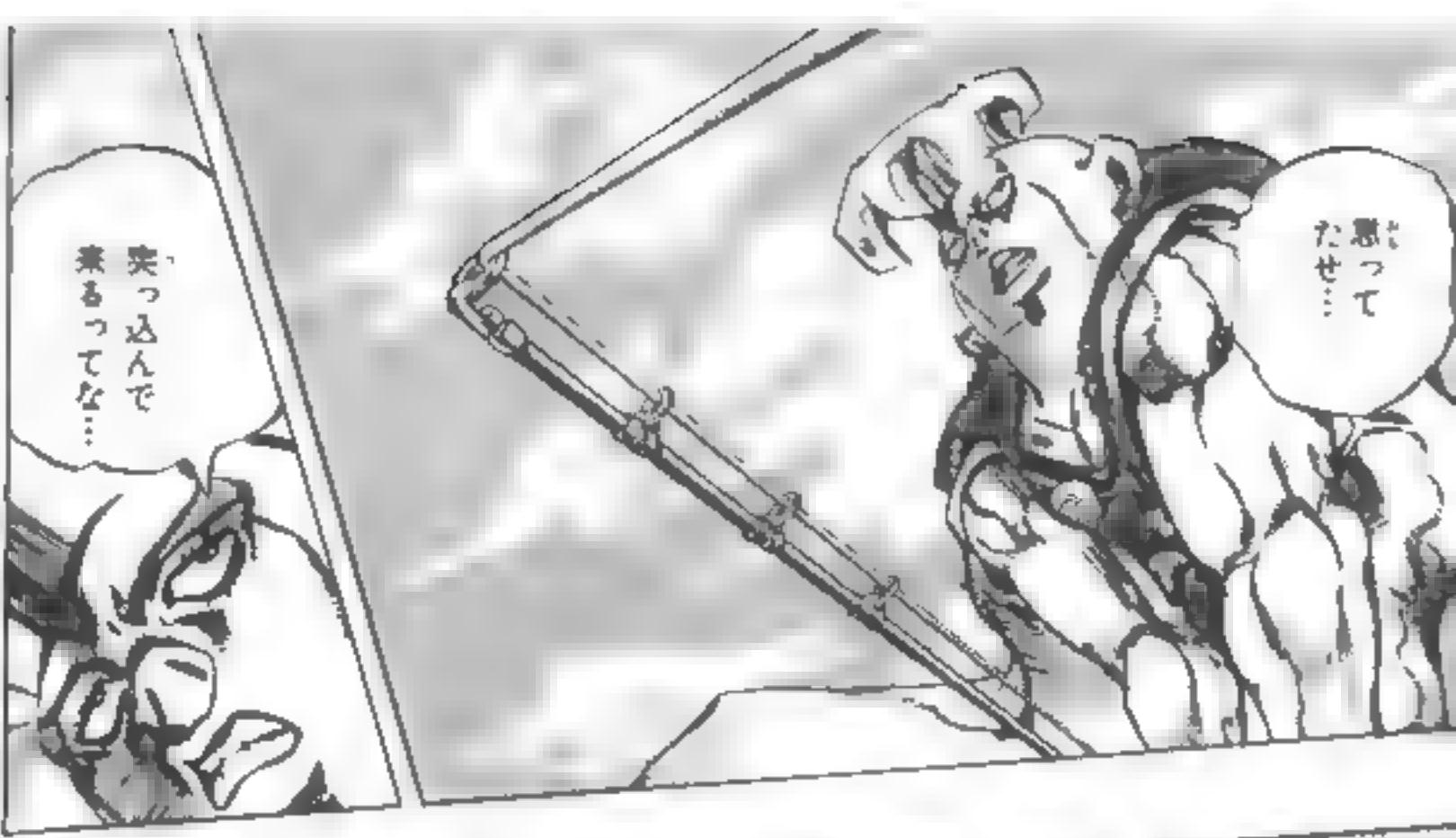
腕を登って心臓まで行くなんて「やり方」は……「はずすかも」って 今まで自信がなかった時だけやってた安全策だ！
ナンダッテエエエエエエエ――――ッ

心臓に
食らいついたッ!
ブッ殺してやるッ
えぐれろッ
ブチャラ…

「ブッ殺してやる」ってセリフは…
終わってから言うもんだぜ
オレたち「ギャングの世界」ではな
連れて……
ガブッ!!
……逃げ……
負け……たのか……オレは
死ぬ
死ぬのか
…が
ただじゃあ死ぬものか
死ぬ前に…
ゴゴゴゴ

ハッ！こっ…
ここは…!?
!?
ブチャラティ!!
あ…アイツ
亀ヲ持ッテイルゾ
タッ大変ダッ！

「娘」は……
行かしてやるよ……
行けよ……
ゲブッ
連れて……
行けよ…
ブチャラティ
!?
…？
どこ？…
ここは…
!?
「地面」
「岩」……
!?
「列車」…？
何が起こっ…
偉大なる死その⑫

ハッ！
だが
篭の中の「部下ども」にうるオオオオオオオ
トリッシュは 離れて 行かしてやる
……このままで
ガブッ
済ませるわけには いかねえ……

ドド
しかし!! おまえの部下の助けが これから先 ねえええよおおお に…
ヤバイソッ スゲェーー ヤバイソッ
コイツ!! 「[illegible]」フ 持ッテ来テ ヤガッタッ!
ドド
ドド
ザ・グレイトフル・デッド
偉大なる死
その⑫

オレ達の仲間が
オメーと
「鍋」を
追跡しやすい
よおおお
によお
亀ごと 中のオレの仲間を
その岩にたたきつけようって
考えているんなら
やめた方が
いい…″
その手を
ふりおろすより
早く″
オレの「スティッキィ・フィンガーズ」は
てめーの全身に
「ジッパー」をぶち
込む

ゴゴゴ
ゴゴ
そいつは
どう～
かな？
オレは こう
死ぬんだぜ・
何もなくって情けねえなクソッ
オメーの心に
部下を失ったという
「絶望」を残して
くれるんなら……
オレは喜んで
やるぜ・
……
さっき おまえの目の中に
ダイヤモンドのように固い
決意をもつ「気高さ」を
見た・
だが…
……堕ちたな
ただの
ゲス野郎の心に……
……!!
「おちる？」
落ちるだって？
落ちて
くだけるのは
ウヒャハハハハハ
こいつらの
方だアアア
ーーッ

「スティッキィー・フィンガーズ!!」
!?

!?
!?
亀よ……ッ!!
亀の中に入ったわ!
ゴロン
ゴロン!

・・今の「男」なら・・・亀の中よ！
!!
ドン
ドド
ドドーー

シ…シマッタァァ——ッ
岩ニ タタキツケヨートシテイタノハ！ハジメカラ「うそ」ダッタッ！
やったぜエエエエエエエエエエエエ
ミ…ミンナノ「首」ヲッ！ヤツは「糸」でッ!!

ひっかかりやがったなッ!!ザマあ見やがれエエエ――ッ!!
もう間に合わねえッ!遠すぎるッ!
うおおおりゃあああああああああああ

おゥええ!
ゲス野郎はな
何をやったってしくじるもんなのさ

アリアリ
アリアリアリアリアリアリ
アリアリアリアリアリアリアリ
アリアリアリアリアリアリアリ
アリアリアリ

アリーヴェデルチ！
（さよならだ）

ヴォオオオ ヴォォー

ドン

プロシュート―死亡
スタンド名 ザ・グレイトフル・デッド
ペッシ―死亡
スタンド名 ビーチ・ボーイ

ジョルノ!
おい ジョルノ
う…
聞いてんのか ジョルノ!
ハッ!
下っぱのくせに 休んでんじゃあ ねーぞ
ブチャラティは どこだ? トイレか?
オレ もう少し 寝るからよ 何かあったらスグに オレを起こすんだぜ ジョルノ
でもなんで 乗り物に のると こう 気もち良く 寝れるのかな?
……
ムニャ ムニャ
そ… そうだッ!
オ オレ 思い出したぞッ! 大変な事が おこったのをッ!

オレ ハッキリとよッ！「バナナ食う」って言ったよなッ！
覚えてるぜ！鮮明によォッ！
でもなんでなくなってんだよッ・・・！オレのバナナがよッ！誰がこのバナナを食った!?
オレをなめてんのか！犯人は誰だよオメーか!? 言えよジョルノ！
………予想していた事だが
やはりこのまま列車には乗って行けないな…
まもなくここには「新しい敵」がやって来るようだ
ク…クソーッだがソーダヨナァ～～!!
仲間へ連絡シテネーワケネーヨナ！
オレたちが「フィレンツェより先に」向かっている事も「亀の謎」の事もまちがいなく伝わっている………
「亀の中」に隠れるのは続けてもいいがここからは別の方法で移動しなくてはならない…
あと4～5時間あまりでヴェネツィアに到着できると思ったが…

何日か
かかる旅に
なるかも
しれない…
聞きたい事が
あるんだけれど
答えて
もらえるのかしら
？
君の方からの
質問に
答える事は
許されていない
何度も言うが
オレたちの任務は
君の護衛だけだ
どうしても
…………
答えて
もらうわ
…………
あたし！

いったい『何者』なの？
なぜ 最近急に奇妙な物が見えるようになったの？
何よこれは!?
この地面はなに？
なぜあたしは知らない父親のために追われるのよッ!?
答えなさいッ！
「ボスの娘」は……
やはり「スタンド使い」……
だが まだ目醒めていないのか……
いや…彼女も理解してないが目醒めつつあるらしい…
もちろん……オレたちは それを知る事も
彼女に答える事も許されないが……
To Be Continued
ゴゴゴゴ
53 ザ・グレイトフル・デッドの巻(完)

■ジャンプ・コミックス

ジョジョの奇妙な冒険

53 ザ・グレイトフル・デッドの巻

1997年6月9日　第1刷発行
2000年6月19日　第12刷発行

著者　荒木飛呂彦

編集　ホーム社
東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
〒101-8050
電話　東京　03(5211)2651

発行人　山下秀樹

発行所　株式会社　集英社
東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
〒101-8050
電話　東京　03(3230)6233(編集)
03(3230)6191(販売)
03(3230)6076(制作)
Printed in Japan

印刷所　株式会社　美松堂
中央精版印刷株式会社

ISBN4-08-872040-7 C9979